

2023年度4月入学 (第二次)

横浜国立大学大学院理工学府

博士課程後期 学生募集要項

【出願手続について】

出願手続は、インターネットから出願申請を行った上で、必要書類を提出してください。

1. 出願申請に必要な環境

出願申請を行うためには、インターネットを利用できるパソコン、プリンター及び電子メールアドレスが必要です。

2. 出願手続の流れ

(1) メールアドレス等の登録

- ① 本学の Web 出願システムにアクセスしてください。
URL : <https://e-apply.jp/e/ynu/>
- ② 画面の指示に従って、志望する専攻等を指定してください。
- ③ 氏名やメールアドレス等を登録し、申込を行ってください。
- ④ メールアドレス等の登録が済みましたら、登録完了メールが届きます。

(2) 出願申請

- ① Web 出願システムにログインし、必要な事項を入力し登録してください。(出願申請)
- ② 出願申請後、Web 出願システムから入学検定料の支払い方法を選択してください。
- ③ 選択した方法に基づき、入学検定料を支払ってください。
- ④ 入学検定料の支払完了通知メールを受信した後、Web 出願システムから出願に必要な書類を印刷してください。

(3) 出願書類提出

- ① 印刷した書類及び証明書等を所定の出願期間内に提出してください。
- ② 全ての書類が本学府に到着した時点をもって、出願手続が完了となります。

※Web 出願システムに出願申請を行っただけでは出願手続は完了しませんので、ご注意ください。

※出願手続の詳細は、本要項及び Web 出願システムにて確認してください。

[新型コロナウイルス感染症拡大の影響による特別措置について]

本入試に限り、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う特別措置を行うこととします。ただし、今後の感染状況によっては、試験内容や実施方法が変更になる可能性があります。最新情報は、理工学府ウェブサイトの「入試・入学」ページ (<https://www.fse.ynu.ac.jp/index.html>) を定期的に確認してください。

1. 外国語（英語）について

- ・本入試に限り、TOEICまたはTOEFLスコア証明書の有効期限について、従来の「出願期間の最終日から起算して2年以内に受験したスコア」という要件を「試験日当日に英語スコア原本を提出できるものであれば受理」という取扱に変更します（有効期限の要件を緩和）。
- ・TOEFL iBT Home EditionおよびTOEFL iBTペーパー版テスト(Paper Edition)のスコアも可とします。

2. 新型コロナウイルス感染者および濃厚接触者と判定された受験者について

- ・新型コロナウイルス感染者および濃厚接触者と判定された受験者は、原則として当日の受験はできません。

※以下、赤字の部分については、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、本入試に限った特別措置となります。

はじめに

本冊子「2023年度4月入学横浜国立大学大学院理工学府博士課程後期(第二次)学生募集要項」には、2023年4月に横浜国立大学大学院理工学府博士課程後期へ入学を希望する人に必要な情報が書かれています。

博士課程後期の入学に関する事項はⅠ～Ⅱ章に、博士課程後期の特色や指導教員一覧はⅢ～Ⅳ章に、社会人の修学に関する特例事項はⅤ～Ⅵ章に記されています。

内容は多岐にわたっていますので、入学を希望する人は本冊子をよく読んで自分に必要とされる情報を正確に取得し、間違いのないように出願手続きを行ってください。

出願に際しては、あらかじめ希望指導教員あるいは表1(4頁参照)の問い合わせ先担当教員とよく相談した上で願書を提出してください。

理工学府の概要や教員の研究内容などは、横浜国立大学大学院理工学府のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.fse.ynu.ac.jp/index.html>

【安全保障輸出管理について】

横浜国立大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「国立大学法人横浜国立大学 安全保障輸出管理規則」を定めて、物品の輸出、技術の提供、人材の交流の観点から外国人留学生の受入れについては厳格な審査を実施しています。規制されている事項に該当する場合は、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合がありますので、願書の提出の前に指導教員予定者と相談をするなど、出願にあたっては注意してください。なお、国籍を問わず入学者全員は、入学時に「外国為替及び外国貿易法」を遵守する誓約書に署名していただきます。詳細については研究推進機構ウェブサイトを参照してください。

<https://www.ripo.ynu.ac.jp/researcher/start/security/>

個人情報の取扱いについて

志願者の入学試験成績及び出願書類等に記載された個人情報については、本学入学者選抜に係る用途の他、本人の申請に伴う入学料免除(留学生を除く)等の福利厚生関係の資料及び本学における諸調査・研究にも利用することがあります。調査・研究結果を発表する場合は個人が特定できないように処理します。それ以外の目的に個人情報が利用又は提供されることはありません。

目 次

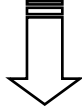
I 一般学生募集要項	・・・ 5 頁
II 社会人特別選抜学生募集要項	・・・ 15 頁
III 博士課程後期の概要	・・・ 23 頁
IV 指導教員一覧	・・・ 27 頁
V 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例 による教育の実施について (社会人技術者又は研究者に対する大学院教育の特例)	・・・ 34 頁
VI 長期履修学生について	・・・ 35 頁
VII 横浜国立大学私費外国人留学生授業料免除制度について	・・・ 37 頁

用語に関する注意点：この学生募集要項では「博士課程の前期二年の課程」は「博士課程前期」とし、
また「博士課程の後期三年の課程」は「博士課程後期」として表記しています。

入試日程

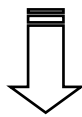
出願資格認定審査（該当者のみ）

2022年11月21日（月）～11月24日（木）



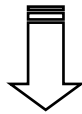
Web出願システムによる出願申請

2022年12月2日（金）～12月13日（火）



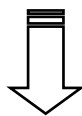
郵送による出願期間

2022年12月13日（火）～12月15日（木）



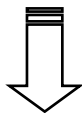
試験日

2023年 1月18日（水）・19日（木）



合格発表

2023年2月2日（木）



入学手続

【2023年4月入学】

2023年3月8日（水）～3月14日（火）

表 1 問い合わせ先担当教員

専攻	ユニット (教育分野)	担当教員名
機械・材料・海洋系 工学	機械工学 (機械工学, エネルギー材料)	篠塚 淳 准教授 shinozuka-jun-yx@ynu.ac.jp
	材料科学フロンティア (材料工学, エネルギー材料)	前野 智美 准教授 maeno-tomoyoshi-yf@ynu.ac.jp
	海洋空間システムデザイン (海洋空間)	樋口 丈浩 准教授 higuchi-takehiro-cy@ynu.ac.jp
化学・生命系理工学	先端化学 (化学, 応用化学, エネルギー材料)	川村 出 准教授 kawamura-izuru-wx@ynu.ac.jp
	化学応用・バイオ (化学応用・バイオ, エネルギー材料)	新田見 匡 准教授 nittami-tadashi-gs@ynu.ac.jp
数物・電子情報系 理工学	数理科学 (数学)	梶原 健 教授 kajiwara-takeshi-rj@ynu.ac.jp
	物理工学 (物理工学)	首藤 健一 准教授 shudo-ken-ichi-jw@ynu.ac.jp
	電子情報システム (応用物理, 情報システム, 電気電子 ネットワーク)	杉本 千佳 准教授 sugimoto-chika-zb@ynu.ac.jp

※ ユニットは入試実施上の区分であり、入学者は上記の各教育分野に所属します。

※ 願書提出前に希望指導教員あるいは問い合わせ先担当教員と相談すること。

I 一般学生募集要項

1. 募集人員

専攻	ユニット ※	教育分野	教育プログラム	募集人員
機械・材料・海洋系工学	機械工学	機械工学	TED 又は PED	若干名
		エネルギー材料	TED	
	材料科学 フロンティア	材料工学	TED 又は PED	
エネルギー材料		TED		
	海洋空間 システムデザイン	海洋空間	TED 又は PED	
化学・生命系理工学	先端化学	化学	PSD	若干名
		応用化学	TED	
		エネルギー材料	TED	
	化学応用・バイオ	化学応用・バイオ	TED 又は PED	
エネルギー材料		TED		
数物・電子情報系理工学	数理科学	数学	理学	若干名
	物理工学	物理工学	PSD	
	電子情報システム	応用物理	TED 又は PED	
		情報システム		
	電気電子ネットワーク			

※ユニットは入試実施上の区分であり、入学者は上記の各教育分野に所属します。

2. 出願資格

次のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び本大学院入学の前までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (6) 大学を卒業後又は学校教育法第104条第7項の規定（大学改革支援・学位授与機構）により学士の学位を授与された後、大学又は研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学府において当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育にお

- ける授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本学府において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (8) 本学府において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、本大学院入学の前までに 24 歳に達するもの

[注 1] 上記以外の出願資格は認定しません。

[注 2] 出願資格 (8) に該当する者とは、著書、学術論文、学術講演、学術報告、及び特許などにおいて、修士の学位論文と同等以上の価値があると認められる業績を有する者で、本大学院入学の前までに 24 歳に達する者です。

[注 3] 出願資格 (6) ~ (8) により出願しようとする者は、出願資格認定審査を行います。あらかじめ希望指導教員と相談のうえ、次の書類を任意の封筒に封入し、**2022 年 11 月 21 日 (月) ~ 11 月 24 日 (木)** の間に理工学系事務部教務課理工学府係まで提出してください。出願書類は郵送または窓口で受け付けますが、いずれも期間内必着とします。

(窓口受付は午前 9 時から午後 17 時まで。ただし 12 時 45 分から 13 時 45 分を除く。)

なお、出願資格認定申請に必要な本学所定の様式は、理工学府ウェブサイトよりダウンロードしてください。

【出願資格 (6)、(7) により出願する者が提出する書類】

- ① 出願書類送付内訳書 (別紙 1)
- ② 出願資格認定申請書 (書式 10)
- ③ 出願資格認定用経歴調書 (書式 13)
- ④ 研究業績調書 (書式 16)
- ⑤ 研究 (希望) 計画書 (書式 17)
- ⑥ 最終学歴の卒業証明書
- ⑦ 最終学歴の成績証明書
- ⑧ 354 円の切手 (速達料を含む) を貼付した住所及び氏名明記の返信用封筒 (長形 3 号)

【出願資格 (8) により出願しようとする者が提出する書類】

- ① 出願書類送付内訳書 (別紙 1)
- ② 出願資格認定申請書 (書式 12)
- ③ 出願資格認定用経歴調書 (書式 13)
- ④ 最終学歴の卒業 (見込み) 証明書又は在学期間 (見込み) 証明書
- ⑤ 最終学歴の成績証明書
- ⑥ 研究業績調書 (書式 16)
- ⑦ 研究 (希望) 計画書 (書式 17)
- ⑧ 354 円の切手 (速達料を含む) を貼付した住所及び氏名明記の返信用封筒 (長形 3 号)

出願資格認定審査は、横浜国立大学大学院理工学府において行い、審査の結果は、**2022 年 12 月 5 日 (月)** に郵送します。出願資格を有すると認められた者は、所定の出願期間に手続きをしてください。その他、出願資格について不明な点は、理工学系事務部教務課理工学府係に問い合わせてください。

後期推薦進学について

本学理工学府または工学府に在籍し、本大学院の入学までに修士の学位を取得見込みの者について、理工学府または工学府の推薦により博士課程後期進学の認定を希望する者は、表 1 (4 頁参

照)の問い合わせ担当教員及び指導教員へ、**2022年11月17日(木)**までに事前相談を必ずしてください。

なお、後期推薦進学の実定結果は、**2022年12月2日(金)**以降に指導教員より本人へ連絡します。実定された者は、後日配布される「後期推薦進学調書」のほか、本学交付の「返信用封筒ラベル①〔様式31〕」(住所、氏名、郵便番号を記入の上、速達郵便料金の切手(400円)を貼付)および「返信用封筒ラベル②〔様式32〕」(住所、氏名、郵便番号を記入)を**2022年12月13日(火)から12月15日(木)まで**に理工学府係に提出してください。3-1. Web出願システムによる出願申請 及び 3-2. 郵送による出願は不要です。また、私費外国人留学生で授業料免除を希望する場合は、「申請書・経費支弁計画書」をあわせて提出してください(VII 横浜国立大学私費外国人留学生授業料免除制度についてを参照)。

最終的に合格した者には、**2023年2月2日(木)**に合格通知書を郵送します。

3. 出願手続

出願する者は、Web出願システムで出願申請を行った後、出願書類(4を参照)を角形2号(24cm×33.2cm)以上の封筒に封入して、封筒表面にWeb出願システムから印刷した宛名ラベル(書式30)を貼付の上、書留郵便で送付してください。

3-1. Web出願システムによる出願申請

志願者は、**2022年12月2日(金)から12月13日(火)まで**にWeb出願システムで出願申請を行ってください。

Web出願システム URL : <https://e-apply.jp/e/ynu/>

注意事項

- ① Web出願システムの入力において、60分間通信がない場合は、エラーとなりますので、ご注意ください。
- ② Web出願システムにおける入力作業を一時中断する場合は、「一時保存」をクリックしてログアウトしてください。再ログイン後、入力を再開することができます。これ以外の方法で入力作業を中断した場合は、入力内容が取り消されます。
- ③ Web出願システムの操作方法に関するお問い合わせは、以下へお願いします。
株式会社ディスコ 「学び・教育サポートセンター」
TEL : 0120-202079 (受付時間: 月~金 10:00~18:00)
E-Mail : cvs-web@disc.co.jp

※Web出願システムによる出願申請を行っただけでは出願手続は完了しません。下記3-2~4を参照のうえ、出願書類を郵送してください。

3-2. 郵送による出願

出願書類を2022年12月13日(火)から12月15日(木)までに届くよう書留郵便で送付してください。

出願書類の受付は書留郵便のみで、期間内必着とします。窓口および電子メールでの受付は行いません。

受付期間後に到着したものは受理しないので、郵便事情等を十分考慮して早めに送付してください。ただし、出願期間を過ぎて到着した出願書類のうち、**2022年12月14日(水)までの発信局消印の**

ある書留速達郵便に限り受理します。

[注1] 土曜日、日曜日・祝日は郵便業務を行わない郵便局があるので事前に確認してください。

[注2] 海外在住の志願者は、日本国内に在住する代理人が出願書類を郵送してください。やむを得ず、日本国外から出願書類を送付する場合は、2022年12月15日(木)までに到着するように、EMS(国際スピード郵便)等、配達を記録できる方法で郵送してください。【期限内必着】ただし、この場合も返信先住所は日本国内のみとします。

[注3] 海外在住の志願者で、受入を内諾している指導教員を通じて出願を行う場合のみ、窓口受付を認めます。

3-3. 出願書類提出先

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5

横浜国立大学 理工学系事務部教務課理工学府係

4. 出願書類等

出願に必要な本学所定の様式は、Web出願システム及び理工学府ウェブサイトよりダウンロードして作成してください。様式の印刷は、全て「A4サイズ・白色用紙」に「片面印刷」とします。

出願書類等	注意事項	書式番号
出願書類送付内訳書	<u>理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して使用してください。</u> 出願書類は、この用紙に記載されている通りの順番に並べて、封入してください。	別紙2 ※理
入学願書	<u>Web出願システムにて必要事項(志願者の氏名、連絡先、学歴、志望先(専攻、ユニット、教育分野、プログラム、指導教員)等)を入力後、印刷して作成してください。</u> 縦4cm×横3cm無帽、上半身正面、背景無地、3ヶ月以内に撮影した写真(1枚)を入学願書に貼り付けてください。 〔注〕入学願書に貼付した写真と同一の写真を受験票(5を参照)に貼付してください。	1-1 ※出
修了(見込)証明書	出身大学(在籍大学)長又は研究科長が作成したものを提出してください。 ・卒業証書の写しをもって代える場合は必ず卒業証書を事前に窓口にて提示して原本確認を受けてください。 ・外国人留学生は、学位証明書など取得学位が記載されているものを併せて提出してください。〔ただし、出願資格(1)による出願者は除く。〕 ・日本語または英語以外で作成された証明書は、日本語訳または英語訳を添付してください。	
成績証明書	出身大学(在籍大学)長又は研究科長が作成したものを提出してください。 日本語または英語以外で作成された証明書は、日本語訳または英語訳を添付してください。	
在留資格に関する証明(外国人留学生のみ)	現在日本に居住している外国人は、在留カードの写し(両面)を提出してください。その他の外国人は、パスポートの写しを提出してください。	
外国人留学生履歴書	<u>Web出願システムにて必要事項を入力後、印刷して作成して下</u>	19-1

(外国人留学生のみ)	さい。〔ただし、出願資格(1)による出願者は除く。〕	※出
受入内諾書 (外国人留学生のみ)	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成して下さい。 希望指導教員の署名を得たうえで提出してください。ただし、希望指導教員の署名は原本でなくてもかまいません。	19-2 ※理
修士論文とその概要	修士論文又はそれに代る論文(1部)とその内容を日本語の場合2000字、英語の場合500 words程度に要約した概要(1部)を提出してください。 修士課程修了見込みの者は、修士論文課題と研究の進行状況を2000字程度の文章に要約してください。	
研究業績調書	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成して下さい。 公表論文その他業績リスト(学術論文・研究報告・特許等の題名、発行又は発表年月、発行所・発表雑誌等・発表学会等の名称、共著者又は共同発表者名等)可能な場合は別刷を添付してください。	16 ※理
研究(希望)計画書	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成して下さい。 博士課程後期における研究(希望)計画書。1000字以内で記載。作成に当たっては、志望するユニットの希望指導教員に問い合わせてください。	17 ※理
入学検定料	<p>払込金額：30,000円 払込期間：2022年12月13日(火)までに払込んでください。 払込方法 Web出願システムで出願申請した後に表示される支払手続画面に従い、支払手続を完了してください。</p> <p>① 海外在住の志願者及び日本国内居住の外国人留学生志願者 クレジットカード(VISA・MasterCard・JCB・American Express・MUFG・DC・UFJ・NICOS)・中国銀聯網決済により払込むことができます。</p> <p>② 日本国内居住の日本人及び外国人留学生志願者 【コンビニエンスストアからの払込】 (セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、サークルKサンクスに限ります。) ・店内にある情報端末機を利用して払込を行ってください。(ATMでは振込できません。必ずレジで払込んでください。)</p> <p>※ 支払方法の詳細は、Web出願システム「はじめに」の「お支払い方法」を参照してください。</p> <p>[注1] 入学検定料が払込まれていない場合は、出願を受理しません。 [注2] 各支払に係る手数料は、入学志願者本人の負担となります。 [注3] 本学大学院の研究科・学府・学環の博士課程前期、修士課程又は専門職学位課程を本大学院入学の前の月に修了見込みの者、および、外国人留学生志願者のうち日本政府(文部科学省)国費外国人留学生は、払込不要です。(出願の際、必ず国費外国人留学生証明書を同封してください。(コピー不可))</p> <p>※災害救助法等の適用地域の被災者に対する入学検定料免除特別措置について 本学では、災害等で被災した受験生の進学機会を確保する観点から、入学検定料免除の特別措置を行います。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。(https://www.ynu.ac.jp/exam/)</p>	
私費外国人留学生授業料免除 「申請書・経費支弁計画書」	VIIを参照 希望者のみ提出してください。	

※理 理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成して下さい。

※出 Web出願システムにて必要事項を入力後、印刷して作成して下さい。

[注] 提出書類の免除

出願資格(6)～(8)により出願しようとする者は、資格認定時に提出した証明書等の再提出を免除します。

5. 受験票

2022年12月23日(金)までに、出願を正式に受理した旨を電子メールでお知らせします。受験票は、メールに記載されている注意事項に従い、Web出願システムにログインして印刷して下さい。印刷した受験票は、入学願書と同一の写真を貼付のうえ、試験当日に持参して下さい。

※受験票(表・裏)には何も記入してはいけません。

6. 選抜の方法及び日程

学力検査(外国語(英語)、学科試験、口述試験)、出願書類により選抜を行います。なお、外国語(英語)の試験は、TOEIC、TOEFLのスコアを用いた選抜を実施します。学科試験及び口述試験を1科目でも受験しなかった場合および、有効なTOEIC、TOEFLスコア証明書を提出しなかった場合は、合格者とはなりません。

(1) 学力検査

(ア) 学科試験

志望する研究分野に関連する問題を出題します。

(イ) 口述試験

修士論文又はそれに代わる論文(修了見込みの者は研究概要)、博士課程後期入学後の研究計画及び専門学力に関する口述試験を行います。なお、受験にあたっての指示事項は、希望指導教員に確認して下さい。

(2) 学力検査科目・日時

期 日	科 目 名	配 点	備 考
—	外国語(英語)	100点	TOEIC、TOEFLのスコア証明書(原本)を用います。
1月18日(水)	学科試験	400点	10時30分～12時30分
1月18日(水)～ 1月19日(木)	口述試験	400点	日時や場所は試験室割発表時に指示されます。(6(3)を参照)

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入室して下さい。
- ・TOEIC、TOEFLのスコア証明書(コピーやダウンロードしたPDFは不可、原本のみ)を学科試験の試験時間中に回収します。
- ・外国人留学生は、学科試験に限り語学の辞書を使用することができますが、電子辞書は使用できません。
- ・外国人留学生は、学科試験および口述試験において解答に英語を使うことを認めます。

(3) 場所

学力検査は、横浜国立大学構内（横浜市保土ヶ谷区常盤台）で行います。

- ・試験室割等は、**2023年1月12日（木）まで**にWeb出願システムに掲載します。

(Web出願システム URL : <https://e-apply.jp/e/ynu/>)

(4) 筆記試験選抜：TOEIC、TOEFL のスコアについて

対象となるテストおよび提出するスコア証明書は以下のとおりです。

対象となる試験	提出するスコア証明書	公式サイト
TOEIC Listening & Reading Test (公開テスト)	Official Score Certificate (公式認定証)	TOEIC (http://www.toeic.or.jp/)
TOEFL-iBT TOEFL iBT Home Edition TOEFL iBT ペーパー版テスト (Paper Edition)	Test Taker Score Report / Examinee Score Report (受験者用控えスコア票)	TOEFL (https://www.toefl-ibt.jp/)

※ TOEIC-IP 及び TOEFL-ITP などの団体受験制度、TOEIC Bridge, TOEIC Speaking & Writing Test, TOEFL-PBT は認められません。

※TOEFL スコア証明書については、試験当日に提出して頂く必要があるため、ETS から大学に直送されるスコア証明書は認められません。

○TOEIC、TOEFL いずれかのスコア証明書（コピーやダウンロードした PDF は不可、原本のみ。以下同じ）を、試験当日に提出してください。スコア証明書は学科試験の試験時間中に回収します。

○スコア証明書は、出願期間の最終日から起算して2年以内のものを提出してください。2023年度4月入学入試（第二次）では、2020年12月16日から2022年12月15日までに受験したテストのスコア証明書試験日当日に原本を提出できるものを有効とします。複数の試験を受験した場合は、合計得点の最も高いものを提出してください。無効となるスコア証明書を提出した場合や、試験当日にスコア証明書の提出がない場合は、合格者とはなりません。

○TOEFL のスコアについて、Test Taker Score Report に記載される My Best Scores は利用しません。

○スコア証明書は、顔写真付きのものを提出してください。

○TOEIC のスコアについては、次表を用いて 100 点満点に換算し、外国語（英語）の得点とします。

換算方法（TOEIC ベース）

TOEIC	換算方法	外国語（英語）
～ 349 点以下	0	0 点
350 点 ～ 500 点	(TOEIC-350) /3	0 点～50 点
500 点 ～ 800 点	(TOEIC-500) /6 + 50	50 点～100 点
801 点以上～		100 点

○TOEFL-iBT のスコアについては、以下の得点換算表を用いて 100 点満点に換算し、外国語（英語）の得点とします。

TOEFL-iBT	外国語（英語）	TOEFL-iBT	外国語（英語）	TOEFL-iBT	外国語（英語）	TOEFL-iBT	外国語（英語）	TOEFL-iBT	外国語（英語）
～90	100	76	84	63～62	66	51	47	41	18

89	99	75～74	82	61	64	50～49	43	40	15
88	98	73～72	80	60～59	63	48	40	39	12
87～86	96	71	78	58	61	47	38	38	7
85～84	95	70～69	75	57	59	46	34	37～36	2
83	92	68	74	56	56	45	31	35～	0
82～81	90	67～66	73	55～54	55	44	28		
80～79	88	65	71	53	53	43	24		
78～77	87	64	68	52	51	42	21		

○小数点以下の得点は四捨五入します。

○提出されたスコア証明書は、志願者へ返却しません。

7. 合格者発表

2023年2月2日(木) 16時頃

合格者には「合格通知書」を郵送します。また、横浜国立大学大学院理工学府のウェブサイト (<https://www.fse.ynu.ac.jp/index.html>) に合格者受験番号を掲載します。

[注1] 「合格通知書」をもって、正式な通知とします。

[注2] 電話等による合否結果の問い合わせには一切応じません。

8. 入学時に必要な経費

(1) 入学料 282,000円(現行)

(2) 授業料 年額 535,800円(現行)

[注1] (1)は、入学手続期間(2023年3月8日(水)～3月14日(火))に間に合うように納入してください。入学手続書類は合格通知書と一緒に郵送します。

上記の入学手続期間内に手続きを完了しない場合は、入学辞退者として取扱います。

[注2] 入学料及び授業料は、改定される場合があります。

[注3] 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新しい授業料が適用されます。

[注4] 本学大学院の研究科・学府・学環の修士課程又は専門職学位課程を本大学院入学の前の月に修了した者および、日本政府(文部科学省)国費外国人留学生については、入学料は不要です。

9. 受験及び修学の上で配慮を必要とする入学志願者の事前相談について

心身の障がい等のある者(下表以外の者も含む)が、受験及び修学の上で配慮が必要となる場合は、出願前までに必ず下記連絡先へ下記の様式により申し出てください。

また、出願後の不慮の事故などにより、受験及び修学の上で配慮が必要となった場合も、その時点で速やかに下記の様式により申し出てください。

なお、下表から判断できない場合については、問い合わせてください。

【代表的な事項】

区 分	障 が い の 程 度
視 覚 障 が い	両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障がいが高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの

聴覚障がい	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢体不自由	一 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 二 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないもののうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病弱	一 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 二 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの
発達障がい	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいのため

(様式) A4 判縦		令和 年 月 日
横浜国立大学長 殿	フリガナ 氏 名 生年月日 住 所 〒 電話番号	
横浜国立大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。		
記		
1. 志望する学府・専攻・ユニット・教育分野		
2. 障がい等の種類、程度		
3. 受験に際して配慮を希望する事項・内容		
4. 入学後の修学に際して配慮を希望する事項・内容		
5. 出身大学在学中にとられていた配慮事項・内容		
6. そ の 他		
(添付書類) 診断書 (原本または写) または身体障害者手帳 (写)、その他参考資料		

【申請方法】

- (1) 申請は、上記様式例を参考に申請書を作成し、診断書 (原本または写) または身体障害者手帳 (写)、その他参考資料を添えて申請してください。
- (2) 申請内容によっては対応に時間を要する場合もあるので、出願する前のできるだけ早い時期に相談してください。
- (3) 申請・連絡先
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 横浜国立大学理工学系事務部教務課理工学府係
電話番号 045-339-3817

10. 注意事項

- (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (2) 出願手続後の提出書類の内容変更は認めません。
- (3) 出願書類等は返却しません。
- (4) 払込済の入学検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。返還請求の方法は、理工学系事務部教務課理工学府係へお問い合わせください。
ア. 入学検定料を払込んだが本学府に出願しなかった (出願書類等を提出しなかった又は出願

が受理されなかった。) 場合

イ. 入学検定料を誤って二重に払込んだ場合

ウ. 新型コロナウイルスの感染拡大防止措置のため、本学への来学が不可能となった場合 (ただし、本学が代替措置を用意できる場合は、検定料返還の対象としない)

※返還額は、返還の際に要する手数料が差し引かれた額となります。

- (5) 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後でも入学を取り消すことがあります。
- (6) 志望する教育分野、教育プログラム、指導教員については、入試の成績によっては志望のとおりとならない場合があります。第2志望以下についても考慮しておいてください。
- (7) 提出した卒業証明書や成績証明書について第三者による認証証明が必要だと本学が判断した場合には、志願者の費用負担で、本学が指定する認証機関において認証に係る審査を受けていただく場合があります。
- (8) 在留資格「留学」を取得するに当たっては、留学生生活を維持できる経済的基盤を有している必要があります。
- (9) 本試験に関する変更等が生じた場合は、理工学府のウェブサイトでお知らせすると共に出願者に通知します。
- (10) 試験当日は、必ず受験票を携帯してください。
- (11) 学科試験及び口述試験を1科目でも受験しなかった場合および、有効な TOEIC、TOEFL スコア証明書を提出しなかった場合は、合格者とはなりません。
- (12) 携帯電話等は、試験室に入る前に電源を切ってカバン等の中にしまってください。
- (13) 官公庁又は会社等に在職している者は、入学手続きの際、その長又は代表者の就学承認書(様式は任意)を必要としますので、あらかじめ用意してください。
- (14) 入学手続後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしません。
- (15) 入学後の経済支援制度として、「入学料免除(留学生を除く)・授業料免除等制度」・「奨学金制度」等があり、多くの学生が活用しています。

Ⅱ 社会人特別選抜学生募集要項

1. 趣旨

本大学院では、独創的技術開発を推進するに当たって先導的役割を果たしうるような、広汎で応用のきく学識・創造能力・国際感覚の三つを備えた博士の養成を目指しています。この趣旨に基づいて、本大学院においては、大学院を社会と海外に向けて開放しており、通常の課程学生・外国人留学生のほかに、社会人技術者又は研究者等で、その実績に評価すべきものを持ち、博士課程後期への入学にふさわしい専門知識と学力を持つ者を対象として、更に大学院における高度な学術の継続研究と博士の学位取得の道を開くため、特別選抜による入学者選抜を実施しています。また社会人の勉学を容易にするために、大学院設置基準に定める教育方法の特例（Vを参照）による教育を行っています。

なお、あらかじめ希望指導教員とよく相談した上で願書を提出してください。

2. 募集人員

専攻	ユニット ※	教育分野	教育プログラム	募集人員
機械・材料・海洋系工学	機械工学	機械工学	TED 又は PED	若干名
		エネルギー材料	TED	
	材料科学 フロンティア	材料工学	TED 又は PED	
		エネルギー材料	TED	
海洋空間 システムデザイン	海洋空間	TED 又は PED		
化学・生命系理工学	先端化学	化学	PSD	若干名
		応用化学	TED	
		エネルギー材料	TED	
	化学応用・バイオ	化学応用・バイオ	TED 又は PED	
エネルギー材料		TED		
数物・電子情報系理工学	数理科学	数学	理学	若干名
	物理工学	物理工学	PSD	
	電子情報システム	応用物理	TED 又は PED	
		情報システム		
	電気電子ネットワーク			

※ユニットは入試実施上の区分であり、入学者は上記の各教育分野に所属します。

3. 出願資格

社会人技術者又は研究者等であって、本大学院入学の前までに同一企業等に、原則として2年以上正規職員として勤務した経験のある者、又は入学後も同一企業等での身分を有し、勤務成績が優秀であると認められて推薦を受けた者で、次のいずれかに該当する者。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び本大学院入学の前までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者

- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (5) 大学を卒業後又は学校教育法第104条第7項の規定（大学改革支援・学位授与機構）により学士の学位を授与された後、大学又は研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学府において当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (6) 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学府において、当該研究の成果等により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

[注1] 上記以外の出願資格の認定については適用しません。

[注2] 社会人特別選抜として出願するすべての者は、出願資格認定審査を行います。あらかじめ希望指導教員と相談のうえ、次の書類を任意の封筒に封入し、**2022年11月21日(月)～11月24日(木)**の間に理工学系事務部教務課理工学府係まで提出してください。出願書類は郵送または窓口で受け付けますが、いずれも期間内必着とします。

(窓口受付は午前9時から午後17時まで。ただし12時45分から13時45分を除く。)

なお、出願資格認定申請に必要な本学所定の様式は、理工学府ウェブサイトよりダウンロードしてください。

- ①出願書類送付内訳書（別紙1）
- ②出願資格認定申請書（書式11）
- ③出願資格認定用経歴調書（書式13）
- ④最終学歴の卒業証明書
- ⑤出願資格に応じ、下記のいずれか。

a. 出願時に職務を有する者：受験許可書及び人物推薦書（勤務先の所属長等が作成したものを提出してください。)

b. 職務経験者：研究又は業務に従事した証明書

- ⑥研究業績調書（書式16）
- ⑦研究（希望）計画書（書式17）
- ⑧354円の切手（速達料を含む）を貼付し、住所及び氏名明記の返信用封筒（長形3号）

また、出願資格（5）（6）により出願しようとする場合は、上記の審査に加えて出願資格（5）（6）の出願資格認定審査を行う必要がありますので、社会人特別選抜出願資格認定書類に加えて、次の書類を任意の封筒に封入の上、**2022年11月21日(月)～11月24日(木)**の間に理工学系事務部教務課理工学府係へ提出してください。出願書類は郵送または窓口で受け付けますが、いずれも期間内必着とします。

- ⑨出願資格認定申請書（書式 10）
- ⑩最終学歴の成績証明書

出願資格認定審査は、横浜国立大学大学院理工学府において行い、審査の結果は、**2022 年 12 月 5 日（月）**に郵送します。社会人特別選抜資格を有すると認められた者は、所定の出願期間に手続きをしてください。

その他、出願資格について不明な点は、本学理工学系事務部教務課理工学府係に問い合わせてください。

4. 出願手続

出願する者は、Web 出願システムで出願申請を行った後、出願書類（5を参照）を角形2号（24cm×33.2cm）以上の封筒に封入して、封筒表面にWeb 出願システムから印刷した宛名ラベル（書式 30）を貼付の上、書留郵便で送付してください。

4-1. Web 出願システムによる出願申請

志願者は、**2022 年 12 月 2 日（金）から 12 月 13 日（火）まで**にWeb 出願システムで出願申請を行ってください。

Web 出願システム URL : <https://e-apply.jp/e/ynu/>

注意事項

- ① Web 出願システムの入力において、60 分間通信がない場合は、エラーとなりますので、ご注意ください。
- ② Web 出願システムにおける入力作業を一時中断する場合は、「一時保存」をクリックしてログアウトしてください。再ログイン後、入力を再開することができます。これ以外の方法で入力作業を中断した場合は、入力内容が取り消されます。
- ③ Web 出願システムの操作方法に関するお問い合わせは、以下へお願いします。
株式会社ディスコ 「学び・教育サポートセンター」
TEL : 0120-202079（受付時間：月～金 10:00～18:00）
E-Mail : cvs-web@disc.co.jp

※Web 出願システムによる出願申請を行っただけでは出願手続は完了しません。下記 4-2～5を参照のうえ、出願書類を郵送してください。

4-2. 郵送による出願

出願書類を 2022 年 12 月 13 日（火）から 12 月 15 日（木）までに届くよう書留郵便で送付してください。

出願書類の受付は書留郵便のみで、期間内必着とします。窓口および電子メールでの受付は行いません。

受付期間後に到着したものは受理しないので、郵便事情等を十分考慮して早めに送付してください。ただし、出願期間を過ぎて到着した出願書類のうち、**2022 年 12 月 14 日（水）までの発信局消印のある書留速達郵便**に限り受理します。

[注1] 土曜日、日曜日・祝日は郵便業務を行わない郵便局があるので事前に確認してください。

[注2] 海外在住の志願者は、日本国内に在住する代理人が出願書類を郵送してください。やむを得ず、日本国外から出願書類を送付する場合は、2022年12月15日（木）までに到着するように、EMS（国際スピード郵便）等、配達を記録できる方法で郵送してください。【期限内必着】
ただし、この場合も返信先住所は日本国内のみとします。

[注3] 海外在住の志願者で、受入を内諾している指導教員を通じて出願を行う場合のみ、窓口受付を認めます。

4-3. 出願書類提出先

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5

横浜国立大学 理工学系事務部教務課理工学府係

5. 出願書類等

出願に必要な本学所定の様式は、Web出願システム及び理工学府ウェブサイトよりダウンロードして作成してください。様式の印刷は、全て「A4サイズ・白色用紙」に「片面印刷」とします。

出願書類等	注意事項	書式番号
出願書類送付内訳書	<u>理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して使用してください。</u> 出願書類は、この用紙に記載されている通りの順番に並べて、封入してください。	別紙2 ※理
入 学 願 書	<u>Web出願システムにて必要事項（志願者の氏名、連絡先、学歴、志望先（専攻、ユニット、教育分野、プログラム、指導教員）等）を入力後、印刷して作成してください。</u> 縦4cm×横3cm 無帽、上半身正面、背景無地、3ヶ月以内に撮影した写真（1枚）を入学願書に貼り付けてください。 〔注〕入学願書に貼付した写真と同一の写真を受験票（6を参照）に貼付してください。	1-1 ※出
修了（見込）証明書	出身大学（在籍大学）長又は研究科長が作成したものを提出してください。 ・卒業証書の写しをもって代える場合は必ず卒業証書を事前に窓口に表示して原本確認を受けてください。 ・外国人留学生は、学位証明書など取得学位が記載されているものを併せて提出してください。〔ただし、出願資格（1）による出願者は除く。〕 ・日本語または英語以外で作成された証明書は、日本語訳または英語訳を添付してください。	
成 績 証 明 書	出身大学（在籍大学）長又は研究科長が作成したものを提出してください。 日本語または英語以外で作成された証明書は、日本語訳または英語訳を添付してください。	
在留資格に関する証明 （外国人留学生のみ）	現在日本に居住している外国人は、在留カードの写し（両面）を提出してください。その他の外国人は、パスポートの写しを提出してください。	

外国人留学生履歴書 (外国人留学生のみ)	<u>Web出願システムにて必要事項を入力後、印刷して作成して下さい。</u> [ただし、出願資格(1)による出願者は除く。]	19-1 ※出
受入内諾書 (外国人留学生のみ)	<u>理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成して下さい。</u> 希望指導教員の署名を得たうえで提出してください。ただし、希望指導教員の署名は原本でなくてもかまいません。	19-2 ※理
修士論文又はそれに代る論文と、その概要	修士論文又はそれに代る論文(これまでの研究成果を示す論文)(1部)とその内容を日本語の場合2000字、英語の場合500 words程度に要約した概要(1部)を提出してください。修士課程修了見込みの者は、修士論文課題と研究の進行状況を2000字程度の文章に要約してください。	
入学検定料	<p>払込金額：30,000円 払込期間：2022年12月13日(火)までに払込んでください。 払込方法 Web出願システムで出願申請した後に表示される支払手続画面に従い、支払手続を完了してください。</p> <p>①海外在住の志願者及び日本国内居住の外国人留学生志願者 クレジットカード(VISA・MasterCard・JCB・American Express・MUFG・DC・UFJ・NICOS)・中国銀聯網決済により払込むことができます。</p> <p>②日本国内居住の日本人及び外国人留学生志願者 【コンビニエンスストアからの払込】 (セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、サークルKサンクスに限りです。) ・店内にある情報端末機を利用して払込を行ってください。(ATMでは振込できません。必ずレジで払込んでください。)</p> <p>※ 支払方法の詳細は、Web出願システム「はじめに」の「お支払い方法」を参照してください。</p> <p>[注1] 入学検定料が払込まれていない場合は、出願を受理しません。 [注2] 各支払に係る手数料は、入学志願者本人の負担となります。 [注3] 本学大学院の研究科・学府・学環の修士課程又は専門職学位課程を本大学院入学の前の月に修了見込みの者、および、外国人志願者のうち日本政府(文部科学省)国費外国人留学生は、払込不要です。(出願の際、必ず国費外国人留学生証明書を同封してください。(コピー不可))</p> <p>※災害救助法等の適用地域の被災者に対する入学検定料免除特別措置について 本学では、災害等で被災した受験生の進学機会を確保する観点から、入学検定料免除の特別措置を行います。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。(https://www.ynu.ac.jp/exam/index.html)</p>	
私費外国人留学生授業料免除 「申請書・経費支弁計画書」	VIIを参照 希望者のみ提出してください。	

※理 理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成して下さい。

※出 Web出願システムにて必要事項を入力後、印刷して作成して下さい。

[注] 提出書類の免除

出願資格認定申請の際に既に提出した書類は、再提出を免除します。

6. 受験票

2022年12月23日(金)までに、出願を正式に受理した旨を電子メールでお知らせします。受験票は、メールに記載されている注意事項に従い、Web出願システムにログインして印刷してください。印刷した受験票は、入学願書と同一の写真を貼付のうえ、試験当日に持参してください。

※受験票(表・裏)には何も記入してはいけません。

7. 選抜の方法

出願書類及び面接試験(専攻科目、修士論文、研究業績、研究計画書等に関する口述試験)により選抜します。面接試験を欠席した場合は、合格者とはなりません。なお、受験あたっての指示事項は、希望指導教員に確認してください。

8. 試験日程及び場所

(1) 面接試験

期 日	科 目 名	備 考
1月18日(水)～1月19日(木)	面接試験	時間や場所は試験室割発表時に指示されます。 (8(2)を参照)

・受験者は試験開始20分前に試験室に入室してください。

(2) 面接試験の場所

面接試験は、横浜国立大学構内(横浜市保土ヶ谷区常盤台)で行うか、オンラインで行うか、選択可能とします(※どちらで実施するかは、受験者の意向を踏まえて大学が決定します)。

面接試験の試験室割等は、**2023年1月12日(木)まで**にWeb出願システムに掲載します。

(Web出願システム URL : <https://e-apply.jp/e/ynu/>)

9. 合格者発表

2023年2月2日(木) 16時頃

合格者には「合格通知書」を郵送します。また、横浜国立大学大学院理工学府のウェブサイト(合格者受験番号)に掲載します。

(ウェブサイトアドレス <https://www.fse.ynu.ac.jp/index.html>)

[注1]「合格通知書」をもって、正式な通知とします。

[注2]電話等による合否結果の問い合わせには一切応じません。

10. 入学時に必要な経費

(1) 入学料 282,000円(現行)

(2) 授業料 年額 535,800円(現行)

[注1] (1)は、入学手続期間(**2023年3月8日(水)～3月14日(火)**)に間に合うように納入してください。入学手続書類は合格通知書と一緒に郵送します。

上記の入学手続期間内に手続きを完了しない場合は、入学辞退者として取扱います。

[注2]入学料及び授業料は、改定される場合があります。

[注3]在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新しい授業料が適用されます。

[注 4] 本学大学院の研究科・学府・学環の修士課程又は専門職学位課程を本大学院入学の前の月に修了した者および、日本政府（文部科学省）国費外国人留学生については、入学料は不要です。

1 1. 受験及び修学の上で配慮を必要とする入学志願者の事前相談について

心身の障がい等のある者(下表以外の者も含む)が、受験及び修学の上で配慮が必要となる場合は、出願前までに必ず下記連絡先へ下記の様式により申し出てください。

また、出願後の不慮の事故などにより、受験及び修学の上で配慮が必要となった場合も、その時点で速やかに下記の様式により申し出てください。

なお、下表から判断できない場合については、問い合わせてください。

【代表的な事項】

区 分	障 がい の 程 度
視 覚 障 がい	両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障がいが高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のも
聴 覚 障 がい	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のも
肢 体 不 自 由	一 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のも 二 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないもののうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のも
病 弱	一 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のも 二 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のも
発 達 障 がい	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいのため

【申請方法】

- (1) 申請は、下記様式例を参考に申請書を作成し、診断書（原本または写）または身体障害者手帳（写）、その他参考資料を添えて申請してください。
- (2) 申請内容によっては対応に時間を要する場合もあるので、出願する前のできるだけ早い時期に相談してください。
- (3) 申請・連絡先

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 横浜国立大学理工学系事務部教務課理工学府係
電話番号 045-339-3817

(様式) A4 判縦		令和 年 月 日
横浜国立大学長 殿	フリガナ 氏 名 生年月日 住 所 〒 電話番号	
横浜国立大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。		
記		
1. 志望する学府・専攻・ユニット・教育分野		
2. 障がい等の種類、程度		

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">3. 受験に際して配慮を希望する事項・内容4. 入学後の修学に際して配慮を希望する事項・内容5. 出身大学在学中にとられていた配慮事項・内容6. その他
(添付書類) 診断書 (原本または写) または身体障害者手帳 (写)、その他参考資料 |
|--|

12. 注意事項

- (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (2) 出願手続後の提出書類の変更は認めません。
- (3) 出願書類等は返却しません。
- (4) 払込済の入学検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。
返還請求の方法は、理工学系事務部教務課理工学府係へお問い合わせください。
 - ア. 入学検定料を払込んだが本学府に出願しなかった (出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった。) 場合
 - イ. 入学検定料を誤って二重に払込んだ場合
 - ウ. 新型コロナウイルスの感染拡大防止措置のため、本学への来学が不可能となった場合 (ただし、本学が代替措置を用意できる場合は、検定料返還の対象としない)※返還額は、返還の際に要する手数料が差し引かれた額となります。
- (5) 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後でも入学を取り消すことがあります。
- (6) 志望する教育分野、教育プログラム、指導教員については、入試の成績によっては志望のとおりとならない場合があります。第2志望以下についても考慮しておいてください。
- (7) 提出した卒業証明書や成績証明書について第三者による認証証明が必要だと本学が判断した場合には、志願者の費用負担で本学が指定する認証機関において認証に係る審査を受けていただく場合があります。
- (8) 本試験に関する変更等が生じた場合は、理工学府のウェブサイトでお知らせすると共に出願者に通知します。
- (9) 試験当日は、必ず受験票を携帯してください。
- (10) 面接試験を欠席した場合は、合格者とはなりません。
- (11) 携帯電話等は、試験室に入る前に電源を切ってカバン等の中にしまってください。
- (12) 官公庁又は会社等に在職している者は、入学手続の際、その長又は代表者の就学承認書 (様式は任意) を必要としますので、あらかじめ用意しておいてください。
- (13) 入学手続後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしません。
- (14) 入学後の経済支援制度として、「入学料免除 (留学生を除く)・授業料免除等制度」・「奨学金制度」等があり、多くの学生が活用しています。

Ⅲ 博士課程後期の概要

1. 大学院教育研究の目的

実践的学術の国際拠点を目指す本学の理工系大学院の基幹をなす理工学府において、自らの専門分野以外の分野の科学技術にも目を向ける進取の精神に富み、高い倫理観とグローバルに活躍するために必要な国際的に通用する知識と能力において理学と工学の両方のセンスを兼ね備えた理工系人材を育成することにより、ものづくりを中心とした産業を更に強化・発展させる。

理工学府博士課程後期では、自ら探求し発見した課題に対し、科学と技術に関する先進的な研究活動を通して幅広い視野から判断を下した解決をもって、広く社会に受容される発信能力により学術と産業の開拓を先導できる人材を育成する。すなわち、イノベーションの創出と発展を担う創造性豊かな高度専門職業人のリーダー人材を育成する。

2. 専攻の特色と育成人材像

2.1 機械・材料・海洋系工学専攻

機械工学，材料工学，船舶海洋工学，航空宇宙工学では，マイクロからマクロにわたる物理現象の解析を基礎として，マイクロマシンから大型構造物まで，高度なシステムを総合的に設計する基盤的科学技術の研究，固体材料の有する力学的特性などの種々の特性の起源に係わる物性論に立脚した，地球と調和した機能及び構造材料の開発並びにこれら材料の製造・加工方法の研究，海洋空間におけるエネルギー利用や移動体・構造物の設計に関わるマクロエンジニアリング的アプローチによる海洋空間利用システムの研究等を通して教育を行い，実践的な高度技術者・研究者のリーダーとしてグローバルに活躍できる創造的な人材を養成する。

2.1.1 教育分野

機械・材料・海洋系工学専攻は，以下の4つの教育分野から構成される。それぞれの教育分野に，付与される学位と教育プログラム名を併記する。

- ・機械工学教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム
- ・材料工学教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム
- ・海洋空間教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム
- ・エネルギー材料教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラム

2.1.2 教育プログラム

機械・材料・海洋系工学専攻での教育は，前節で示した各教育分野で行われるが，学位取得のためのプロセスとしての2つの教育プログラムを用意している。

- ・工学（TED）プログラム（機械工学教育分野，材料工学教育分野，海洋空間教育分野，エネルギー材料教育分野）

機械工学分野では，機械工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レ

ベルの専門知識を有し、先進的な機械や機械システムを構築するための卓越した能力を備えた独創性豊かな研究者・技術者を目指す人を求める。材料工学分野では、材料工学・材料科学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レベルの専門的知識を有し、材料の力学と加工、材料の強度と組織、材料の機能と構造、材料の物理化学のいずれかの分野に関する高度で先進的な研究・技術に興味がある人を求める。海洋空間分野では、船舶海洋工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レベルの専門的知識を有し、海洋空間を利用するための先進技術や基盤技術を統合する技術に積極的に取り組める人を求める。エネルギー材料教育分野では、材料工学又は機械工学に関する博士課程前期レベルの専門的知識を有し、エネルギー機器に用いられる材料の強度と組織、材料の機能と構造のいずれかの分野に関する高度で先進的な研究・技術に興味がある人を求める。

・工学 (PED) プログラム (機械工学教育分野, 材料工学教育分野, 海洋空間教育分野)

機械工学分野では、機械工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レベルの専門知識を有し、機械工学に係わる諸問題に対してグローバルに対応できる、実務能力を備えた自立した実務家・研究者を目指す人を求める。材料工学分野では、材料工学・材料科学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レベルの専門的知識を有し、材料の力学と加工、材料の強度と組織、材料の機能と構造、材料の物理化学のいずれかの分野の高度で実践的な研究・技術に興味がある人を求める。海洋空間分野では、船舶海洋工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レベルの専門的知識を有し、海洋空間を利用するための機器の計画、建造、運用に関する実践的かつ高度な技術課題に積極的に取り組める人を求める。

2.2 化学・生命系理工学専攻

原子の集合体としての分子や固体材料、分子の集合体としての有機材料は、その電子構造及び原子や分子の種類とその配列によって現れる機能が大きく変化する。そのためその構造-機能発現相関を明らかにすることは物質化学の根幹をなす。また物質の持つ化学エネルギーを効率よく利用し、多種多様な情報を統合して新素材を効率よく製造するプロセスの確立は、環境負荷を少なく効率的に物質を製造・利用するための最重要課題である。食料問題や生命・医療などのグローバルな課題の解決に生命現象の解明と応用が必要である。本専攻では、新しい機能を発現する分子・材料の開発、製造や利用プロセスの開発、生命現象の解明と応用などを通し、物質と生命の課題を発見し地球環境に配慮して効率的に解決できる創造的な人材を育成する。

2.2.1 教育分野

化学・生命系理工学専攻は、以下の4つの教育分野から構成される。それぞれの教育分野に、付与される学位と教育プログラム名を併記する。

- ・化学教育分野：博士 (理学), 理学 (PSD) プログラム
- ・応用化学教育分野：博士 (工学), 工学 (TED) プログラム
- ・化学応用・バイオ教育分野：博士 (工学), 工学 (TED) プログラムまたは工学 (PED) プログラム

ラム

・エネルギー材料教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラム

2.2.2 教育プログラム

化学・生命系理工学専攻での教育は、前節で示した各教育分野で行われるが、学位取得のためのプロセスとしての3つの教育プログラムを用意している。

・工学（TED）プログラム（応用化学教育分野，化学応用・バイオ教育分野，エネルギー材料教育分野）

物質・材料の基盤となる無機化学，分析化学，物理化学，有機化学等の諸分野に加え，材料工学，エネルギー化学，触媒化学，高分子化学，生化学，化学工学，生物工学等に関する高度な知識を有し，新しい機能を発現する分子・材料の開発，製造や利用プロセスの開発，生命現象の解明と応用，物質と生命の課題を発見し地球環境に配慮して効率的に解決する力を育成する。本プログラムでは，化学，エネルギー化学，バイオ・ライフサイエンスおよびこれらの関連分野に関して，高度な研究・開発能力，及び未知の問題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的に判断し解決できる能力を身に付けた人材を求める。

・工学（PED）プログラム（化学応用・バイオ教育分野）

物質・材料の基盤となる化学の諸分野に加え，材料工学，化学工学，生物工学，生化学等に関する高度な知識を有し，先端物質・材料の創製と製造，エネルギー化学，及びバイオ・ライフサイエンスに関する高度な研究・開発能力，未知の問題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的に判断し解決できる能力，基礎知識を総合して応用技術を構築する先進的な能力を育成する。本プログラムでは，化学工学，エネルギー化学，材料工学，バイオ・ライフサイエンスおよびこれらの関連分野に関して，高度な実践的な能力の育成を目指す工学系教育を行い，自らの知識，経験，技術，洞察力などを統合して新しい産業応用展開方向を生み出す力，リーダーとなる能力を養成する。

・理学（PSD）プログラム（化学教育分野）

無機化学，分析化学，物理化学，有機化学，触媒化学，高分子化学，電気化学，生物化学等の化学の諸分野において，分子・材料の設計原理およびその合成方法の深い探求や，化学的事象・物性等の詳細な解明を行うことにより，化学分野における高度の学術的探求能力を涵養するとともに，研究成果を国際的に発信する能力を育成する。併せて，材料工学，触媒工学，生物工学等，化学・生命系諸分野の工学的応用に関する教育により，化学分野における工学的価値観を確立する。これらを総合することにより，理学的な真理探究のみならず，理学的基礎科学に基づいた次世代の基盤材料開発にも貢献できる高度の能力を身に付けた，学界・産業界で国際的に活躍できる人材を養成する。

2.3 数物・電子情報系理工学専攻

数物・電子情報系理工学専攻（博士課程後期）の人材養成目的は、数理科学，物理学などの基礎（理学）から応用（工学）に至る広範囲な分野に精通した総合的・学際の見識が求められているのは博士課程前期と同様であるが，博士課程後期では，博士課程前期までに培った知識

を世界トップレベルの研究活動を通じて深化させ、先導的に数理科学、物理学、電気工学、電子工学、通信工学、情報工学、医療情報工学、応用物理学などの分野における学術・産業の創出、発展を担い、激変する知識基盤社会・高度情報化社会の諸問題を創造的に解決できる研究者・技術者のリーダー人材を育成することである。

2.3.1 教育分野

数物・電子情報系理工学専攻は、以下の5つの教育分野から構成される。それぞれの教育分野に、付与される学位と教育プログラム名を併記する。

- ・数学教育分野：博士（理学），理学プログラム
- ・物理工学教育分野：博士（理学），理学（PSD）プログラム
- ・応用物理教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム
- ・情報システム教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム
- ・電気電子ネットワーク教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム

2.3.2 教育プログラム

- ・工学（TED）プログラム（応用物理教育分野，情報システム教育分野，電気電子ネットワーク教育分野）

電気・電子ネットワーク分野，情報システム分野，応用物理分野の基礎的な学力と専門分野において博士課程前期レベルの能力を有し，高度の研究・開発能力，自ら課題を探求し，未知の問題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下して解決できる力を持ち，成果を国際的に発信する能力を有し，新しい研究の方向を開拓するリーダーとなることに情熱を持つ人を求める。

- ・工学（PED）プログラム（応用物理教育分野，情報システム教育分野，電気電子ネットワーク教育分野）

上記の分野において博士課程前期レベルの能力を有し，電気・電子・通信・情報などの分野のスタジオで論文作成指導を受け，専門性をさらに研鑽し，博士の学位を取得することに情熱を持つ人を求める。また，社会で活躍できる実務家の観点から学位論文を作成し，博士の学位を取得することに情熱を持つ人を求める。

- ・理学（PSD）及び理学プログラム（物理工学教育分野，数学教育分野）

物理学又は数学の各分野において博士課程前期レベルの能力，高度な研究・開発能力，及び成果を国際的に発信する能力を有する人を求める。また，自ら新しい問題・課題を発見し，それを物理学又は数学の概念を利用して論理的に解決する道を開く意欲と決意をもつとともに，これらを通して，新しい研究分野を開拓するリーダーとなることに情熱を持つ人を求める。

IV 指導教員一覧

令和4年10月更新

各指導教員の詳細については、横浜国立大学大学院理工学府ウェブサイト(<https://www.fse.ynu.ac.jp/index.html>) の「入試情報」を参照のこと。

専攻	ユニット	氏名	フリガナ	職名	担当教育分野 (M:博士課程前期) (D:博士課程後期)	専門分野	語学の条件	受入大学院生の種類	
								博士	修士
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	荒木 拓人	アラキ タクト	教授	機械工学(MD)、エネルギー材料(D)	熱流体工学, 移動論, 燃料電池, マイクロ電気・機械システム	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	石井 一洋	イシイ カズヒロ	教授	機械工学(MD)、航空宇宙工学(M)	燃焼工学, 推進工学	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	干 強	ウ キョウ	教授	機械工学(MD)	計算力学, 材料力学	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	尾崎 伸吾	オザキ シンゴ	教授	機械工学(MD)、エネルギー材料(D)	構成方程式, 塑性力学, 摩擦, 自己治癒材料, テラメカニクス	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	佐藤 恭一	サトウ ヤスカズ	教授	機械工学(MD)	メカトロニクス, 電気・機械システム, 油空圧工学	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	眞田 一志	サナダ カズシ	教授	機械工学(MD)	制御工学	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	西野 耕一	ニシノ コウイチ	教授	機械工学(MD)	乱流, 可視化計測, デジタル画像処理技術利用	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	百武 徹	ヒヤクタケ トオル	教授	機械工学(MD)	数値流体力学, バイオメカニクス, マイクロ・ナノ流体工学	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	前田 雄介	マエダ ユウスケ	教授	機械工学(MD)	ロボット工学, 生産システム工学	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	松井 純	マツイ ジュン	教授	機械工学(MD)	流体機械の内部流れ, 数値流体力学	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	丸尾 昭二	マルオ ショウジ	教授	機械工学(MD)	超微細3Dプリンティング, マイクロマシン, マイクロ化学分析システム	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	太田 裕貴	オオタ ヒロキ	准教授	機械工学(MD)	マイクロ・ナノ加工, センシング工学, ソフトマテリアル	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	加藤 龍	カトウ リュウ	准教授	機械工学(MD)	ロボット工学, 医用福祉機械, リハビリテーション工学, プレインマシンインターフェース	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	北村 圭一	キタムラ ケイイチ	准教授	機械工学(MD)、航空宇宙工学(M)	空気力学, 数値流体力学, 極超音速流, 混相流	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	酒井 清吾	サカイ セイゴ	准教授	機械工学(MD)	伝熱, 数値シミュレーション, ふく射交換	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	篠塚 淳	シノヅカ ジュン	准教授	機械工学(MD)	切削加工, 有限要素法, 材料の動的挙動	日本語 または英語	○	○

専攻	ユニット	氏名	フリガナ	職名	担当教育分野 (M:博士課程前期) (D:博士課程後期)	専門分野	語学の条件	受入大学院生の種類	
								博士	修士
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	鷹尾 祥典	タカオ ヨシノリ	准教授	機械工学(MD)、航空宇宙工学(M)	電気推進, プラズマ応用	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	機械工学	淵脇 大海	フチワキ オオミ	准教授	機械工学(MD)	機構, 精密位置決め, マイクロマニピュレーション, アクチュエータ	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	材料科学フロンティア	梅澤 修	ウメザワ オサム	教授	材料工学(MD)、エネルギー材料(D)	金属物理学、材料組織学、材料強度学	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	材料科学フロンティア	中尾 航	ナカオ ワタル	教授	材料工学(MD)、エネルギー材料(D)	機械材料・材料力学、構造・機能材料、無機材料・物性	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	材料科学フロンティア	長谷川 誠	ハセガワ マコト	教授	材料工学(MD)、航空宇宙工学(M)	材料強度、破壊力学、材料組織制御、複合材料、コーティング	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	材料科学フロンティア	廣澤 渉一	ヒロサワ ショウイチ	教授	材料工学(MD)、エネルギー材料(D)	構造材料設計、金属組織制御、計算材料学	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	材料科学フロンティア	向井 剛輝	ムカイ コウキ	教授	材料工学(MD)	半導体ナノ構造、量子光学材料、光電子工学材料、太陽電池	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	材料科学フロンティア	大竹 充	オオタケ ミツル	准教授	材料工学(MD)、エネルギー材料(D)	ナノ材料、結晶成長、磁気物性	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	材料科学フロンティア	大野 直子	オオノ ナオコ	准教授	材料工学(MD)	原子力材料、極限材料、微細組織解析	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	材料科学フロンティア	中津川 博	ナカツガワ ヒロシ	准教授	材料工学(MD)	機能材料工学、固体電子論、熱電変換材料、第一原理計算	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	材料科学フロンティア	前野 智美	マエノ トモヨシ	准教授	材料工学(MD)	生産加工、塑性加工	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	材料科学フロンティア	長田 俊郎	オサダ トシオ	客員教授	エネルギー材料(D)	高温構造材料、材料組織学、材料強度学、破壊力学	日本語 または英語	○	—
機械・材料・海洋系工学専攻	海洋空間システムデザイン	岡田 哲男	オカダ テツオ	教授	海洋空間(MD)	船体構造設計、構造解析	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	海洋空間システムデザイン	川村 恭己	カワムラ ヤスミ	教授	海洋空間(MD)	構造力学、CAE、構造信頼性	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	海洋空間システムデザイン	西 佳樹	ニシ ヨシキ	教授	海洋空間(MD)	海洋資源、深海開発、海水淡水化	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	海洋空間システムデザイン	村井 基彦	ムライ モトヒコ	教授	海洋空間(MD)	海洋工学、大型海洋構造物設計、浮体式構造物設計、海洋空間利用システム、流体力学、海洋環境工学	日本語 または英語	○	○

専攻	ユニット	氏名	フリガナ	職名	担当教育分野 (M:博士課程前期) (D:博士課程後期)	専門分野	語学の条件	受入大学院生の種類	
								博士	修士
機械・材料・海洋系工学専攻	海洋空間システムデザイン	高木 洋平	タカギ ヨウヘイ	准教授	海洋空間(MD)	数値流体力学、抵抗低減、混相流	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	海洋空間システムデザイン	樋口 丈浩	ヒグチ タケヒロ	准教授	海洋空間(MD)、航空宇宙工学(M)	航空宇宙機の姿勢制御・誘導制御, 航空宇宙システム設計, 最適制御, UAV	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	海洋空間システムデザイン	平川 嘉昭	ヒラカワ ヨシアキ	准教授	海洋空間(MD)	船体運動、海洋波、水槽実験、実海域実験	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	海洋空間システムデザイン	満行 泰河	ミツユキ タイガ	准教授	海洋空間(MD)	大規模複雑システム設計、システム工学	日本語 または英語	○	○
機械・材料・海洋系工学専攻	海洋空間システムデザイン	宮路 幸二	ミヤジ コウジ	准教授	海洋空間(MD)、航空宇宙工学(M)	高速空気力学、数値流体力学、航空機設計	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	跡部 真人	アトベ マヒト	教授	化学(MD)、応用化学(D)、エネルギー化学(M)	有機電気化学、電解合成、電解重合	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	大山 俊幸	オオヤマ トシユキ	教授	化学(MD)、応用化学(MD)	高分子合成、機能性高分子、感光性高分子、熱硬化性樹脂	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	窪田 好浩	クボタ ヨシヒロ	教授	化学(MD)、応用化学(D)、エネルギー化学(M)	触媒化学、ゼオライト科学、ファインケミカルの環境調和合成	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	児嶋 長次郎	コジマ チョウジロウ	教授	化学(MD)、応用化学(MD)	生物物理化学、構造生物学、ケミカルバイオロジー	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	多々見 純一	タタミ ジュンイチ	教授	化学(MD)、応用化学(MD)	セラミックスの微構造と力学特性, 先進セラミックスプロセスング, 線形破壊力学, 破壊統計論, 評価設計手法	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	獨古 薫	ドッコ カオル	教授	化学(MD)、応用化学(D)、エネルギー化学(M)、エネルギー材料(D)	電気化学、無機材料化学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	本倉 健	モトクラ ケン	教授	化学(MD)、応用化学(D)、エネルギー化学(M)、エネルギー材料(D)	協奏的触媒作用、固定化触媒、二酸化炭素の化学変換	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	山口 佳隆	ヤマグチ ヨシタカ	教授	化学(MD)、応用化学(MD)	錯体化学、有機金属化学、均一系分子触媒	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	藪内 直明	ヤブウチ ナオアキ	教授	化学(MD)、応用化学(D)、エネルギー化学(M)、エネルギー材料(D)	固体化学、材料化学、電気化学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	飯島 志行	イイジマ モトユキ	准教授	化学(MD)、応用化学(MD)	粉体材料プロセスング, 微粒子・ナノ粒子表面改質, コロイド・界面化学, 複合材料機能制御	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	伊藤 傑	イトウ スグル	准教授	化学(MD)、応用化学(MD)	有機合成化学、有機光化学、超分子化学	日本語 または英語	○	○

専攻	ユニット	氏名	フリガナ	職名	担当教育分野 (M:博士課程前期) (D:博士課程後期)	専門分野	語学の条件	受入大学院生の種類	
								博士	修士
化学・生命系理工学専攻	先端化学	稲垣 怜史	イナガキ サトシ	准教授	化学(MD)、応用化学(D)、エネルギー化学(M)	触媒化学、ゼオライト科学、ファインケミカルの環境調和合成	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	上野 和英	ウエノ カズヒデ	准教授	化学(MD)、応用化学(D)、エネルギー化学(M)、エネルギー材料(D)	電気化学、有機材料化学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	生方 俊	ウブカタ タカシ	准教授	化学(MD)、応用化学(MD)	光機能化学、フォトクロミズム	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	川村 出	カワムラ イズル	准教授	化学(MD)、応用化学(MD)	構造生物学、生物物理化学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	菊地 あづさ	キクチ アツサ	准教授	化学(MD)、応用化学(MD)	光物理化学、フォトクロミズム、有機系紫外線吸収剤	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	癸生川 陽子	ケブカワ ヨウコ	准教授	化学(MD)、応用化学(MD)	宇宙化学、分析化学、アストロバイオロジー	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	五東 弘昭	ゴトウ ヒロアキ	准教授	化学(MD)、応用化学(MD)	有機合成化学、物理有機化学、分子設計	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	迫村 勝	サコムラ マサル	講師	化学(MD)、応用化学(MD)	物理化学、表面科学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	先端化学	井出 裕介	イデ ユウスケ	客員教授	エネルギー材料(D)	鉱物、低次元材料、触媒、光触媒、UV遮蔽	日本語 または英語	○	—
化学・生命系理工学専攻	先端化学	万代 俊彦	マンダイ トシヒコ	客員准教授	エネルギー材料(D)	電気化学、溶液化学、構造化学、有機合成	日本語 または英語	○	—
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	岡崎 慎司	オカザキ シンジ	教授	化学応用・バイオ(M【PEDのみ】 D)、エネルギー化学(M)	センサ工学、腐食防食工学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	金井 俊光	カナイ トシミツ	教授	化学応用・バイオ(MD)	光学材料、コロイド化学、マイクロ流体	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	栗原 靖之	クリハラ ヤスユキ	教授	化学応用・バイオ(MD)	RNA制御による哺乳類精子形成の分子機構、哺乳類遺伝学、分子生物学、モノクローナル抗体技術、生殖細胞工学、動物における遺伝情報発現調節	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	高橋 宏治	タカハシ コウジ	教授	化学応用・バイオ(MD)	材料強度学、材料工学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	武田 穰	タケダ ミノル	教授	化学応用・バイオ(MD)	応用生物化学、微生物学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	福田 淳二	フクダ ジュンジ	教授	化学応用・バイオ(MD)	再生医療、ティッシュエンジニアリング	日本語 または英語	○	○

専攻	ユニット	氏名	フリガナ	職名	担当教育分野 (M:博士課程前期) (D:博士課程後期)	専門分野	語学の条件	受入大学院生の種類	
								博士	修士
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	光島 重徳	ミツシマ シゲノリ	教授	化学応用・バイオ(M【PEDのみ】 D)、エネルギー化学(M)、エネルギー材料(D)	エネルギー変換化学(燃料電池、工業電解材料)	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	吉武 英昭	ヨシタケ ヒデアキ	教授	化学応用・バイオ(M【PEDのみ】 D)、エネルギー化学(M)	環境物理化学・物質化学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	飯島 一智	イイジマ カズトシ	准教授	化学応用・バイオ(MD)	生体関連化学、医工学、生体材料、再生医療	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	黒田 義之	クロダ ヨシユキ	准教授	化学応用・バイオ(M【PEDのみ】 D)、エネルギー化学(M)	無機合成化学、エネルギー材料	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	鈴木 敦	スズキ アツシ	准教授	化学応用・バイオ(MD)	発生生物学、生化学、マウス遺伝学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	中村 一穂	ナカムラ カズホ	准教授	化学応用・バイオ(MD)	膜分離、分離工学、環境化学工学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	新田見 匡	ニッタミ タダシ	准教授	化学応用・バイオ(MD)	生物化学工学、環境工学、微生物学	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	松澤 幸一	マツザワ コウイチ	准教授	化学応用・バイオ(M【PEDのみ】 D)、エネルギー化学(M)	応用電気化学、エネルギー変換材料	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	三角 隆太	ミスミ リョウタ	准教授	化学応用・バイオ(MD)	ミキシング、晶析、移動現象、数値流動解析	日本語 または英語	○	○
化学・生命系理工学専攻	化学応用・バイオ	相原 雅彦	アイハラ マサヒコ	講師	化学応用・バイオ(MD)	化学エネルギー工学、化学反応工学、膜分離、グリーン水素	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	数理科学	植木 誠一郎	ウエキ セイイチロウ	教授	数学(MD)	解析関数空間と作用素	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	数理科学	梶原 健	カジワラ タケシ	教授	数学(MD)	代数学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	数理科学	黒木 学	クロキ マナブ	教授	数学(MD)	統計的因果推論	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	数理科学	竹居 正登	タケイ マサト	准教授	数学(MD)	格子確率モデル、確率過程	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	数理科学	本田 淳史	ホンダ アツフミ	准教授	数学(MD)	微分幾何学、部分多様体論、特異点論	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理工学	一柳 優子	イチヤナギ ユウコ	教授	物理工学(MD)	ナノ磁性、ナノ医療	日本語 または英語	○	○

専攻	ユニット	氏名	フリガナ	職名	担当教育分野 (M:博士課程前期) (D:博士課程後期)	専門分野	語学の条件	受入大学院生の種類	
								博士	修士
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	片山 郁文	カタヤマ イクフミ	教授	物理学(MD)	テラヘルツ及び超高速分光	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	洪 鋒雷	コウ ホウライ	教授	物理学(MD)	超精密分光・量子計測	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	小坂 英男	コサカ ヒデオ	教授	物理学(MD)	量子コンピュータ、量子通信、量子情報物理	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	佐藤 丈	サトウ ジョウ	教授	物理学(MD)	素粒子論	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	関谷 隆夫	セキヤ タカオ	教授	物理学(MD)	固体物理、高圧物理	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	南野 彰宏	ミナミノ アキヒロ	教授	物理学(MD)	ニュートリノ物理学、素粒子物理学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	上原 政智	ウエハラ マサトモ	准教授	物理学(MD)	固体物理、物質科学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	大野 真也	オオノ シンヤ	准教授	物理学(MD)	表面物理学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	片寄 祐作	カタヨセ ユウサク	准教授	物理学(MD)	宇宙線物理学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	島津 佳弘	シマヅ ヨシヒロ	准教授	物理学(MD)	低温物性実験	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	首藤 健一	シュドウ ケンイチ	准教授	物理学(MD)	表面物理学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	白崎 良演	シラサキ リョウエン	准教授	物理学(MD)	物性理論(凝縮系物理学)、複雑系科学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	堀切 智之	ホリキリ トモユキ	准教授	物理学(MD)	量子情報、量子光学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	物理学	Raebiger Hannes	レービガー ハンネス	准教授	物理学(MD)	物理学、量子化学、材料学	英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	赤津 観	アカツ カン	教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	パワーエレクトロニクス、電力変換工学、制御工学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	荒川 太郎	アラカワ タロウ	教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	光エレクトロニクス、半導体	日本語 または英語	○	○

専攻	ユニット	氏名	フリガナ	職名	担当教育分野 (M:博士課程前期) (D:博士課程後期)	専門分野	語学の条件	受入大学院生の種類	
								博士	修士
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	市毛 弘一	イチゲ コウイチ	教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	デジタル信号処理, 近似理論, 移動体通信, 画像処理	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	落合 秀樹	オチアイ ヒデキ	教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	無線通信システム、モバイルネットワーク、符号理論、通信理論	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	関口 康爾	セキグチ コウジ	教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	スピントロニクス、マグノニクス、エナジーハーベスティング	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	竹村 泰司	タケムラ ヤスシ	教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	バイオ医療マグネティックス, 磁気工学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	馬場 俊彦	ババ トシヒコ	教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	光エレクトロニクス, ナノフォトニクス, 集積フォトニクス, IoTセンサ	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	濱上 知樹	ハマガミ トモキ	教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	知能情報学, ソフトコンピューティング, システム工学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	藤本 康孝	フジモト ヤスタカ	教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	システム工学, ロボット工学, 制御工学, 電気機器工学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	吉川 信行	ヨシカワ ノブユキ	教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	集積回路、電子デバイス、超伝導エレクトロニクス	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	大矢 剛嗣	オオヤ タカヒデ	准教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	電子デバイス・電子機器, 電子・電気材料工学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	久我 宣裕	クガ ノブヒロ	准教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	マイクロ波工学・電磁波測定・アンテナ工学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	下野 誠通	シモノ トモユキ	准教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	モーションコントロール, ハプティクス, メカトロニクス, ロボット工学, 電気機器工学	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	杉本 千佳	スギモト チカ	准教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	知覚情報処理, 生体システム工学, ヒューマンセンシング, 医療ICT	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	辻 隆男	ツジ タカオ	准教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	電力システム工学, スマートグリッド, 再生可能エネルギー	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	中田 雅也	ナカタ マサヤ	准教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	ソフトコンピューティング, 最適化, データマイニング	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	西島 喜明	ニシジマ ヨシアキ	准教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	プラズモニクス, 光エレクトロニクス, ナノ光センサー, 光熱エネルギー変換	日本語 または英語	○	○
数物・電子情報系理工学専攻	電子情報システム	山梨 裕希	ヤマナシ ユウキ	准教授	応用物理(MD)、情報システム(MD)、電気電子ネットワーク(MD)	電子デバイス・電子機器, 電子・電気材料工学	日本語 または英語	○	○

V 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例 による教育の実施について (社会人技術者又は研究者に対する大学院教育の特例)

近年、大学院における社会人技術者又は研究者の継続研修・再教育及び博士の学位取得の要望が高まっておりますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は、最低博士課程前期は2年間、博士課程後期は3年間その勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されがちです。

一方、大学院設置基準（文部科学省令）第 14 条では、「大学院の課程においては教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期においては授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定されており、社会人等の就学に配慮がなされています。これらの背景を踏まえ同条に定める教育方法の特例を大学院での履修を希望する社会人技術者又は研究者に対し実施しています。

この内容は次のとおりです。

- (1) 修学年限（博士課程前期2年、博士課程後期3年）のうち1年間は、原則として、全日登学をすること。
- (2) 特例による授業は平日の夜間（17時50分～19時20分）に開設するが、昼間の授業を含めた全時間帯の受講を許可する。
- (3) 博士課程前期では学業に専念する1年間は主として修士研究に充てられるように修了に必要な授業の単位修得は夜間（17時50分～19時20分）の授業を利用して行うよう履修計画を立てること。したがって、学業に専念する期間における昼間の受講は夜間に開講されていない授業に限ることが望ましい。
- (4) 入学に当たっては、指導教員の指導のもとに、博士課程前期は2年間、博士課程後期は3年間を見通した履修計画をたてること。
- (5) 修学年限で修了するのが勤務の都合上無理な場合は、あらかじめ博士課程前期は3～4年間、博士課程後期は4～6年間にわたる履修計画をたてることも考慮すること。
- (6) 「特例」による履修計画の変更はその都度申し出て許可を得ること。

本学大学院理工学府は、上記特例の適用によって、勤務を離れる期間を1年間に短縮する条件を醸成することにより、通常の方法のみでは実現することが難しい社会人技術者の大学院入学の機会を与えて、継続研修及び再教育の場を提供することを目指しております。研究のテーマに柔軟性を持たせ、企業での実践的研究も、その研究が修士・博士研究にふさわしければ認めるなど、社会人の入学を橋渡しとして、大学と産業界との交流を深め、新しい学問と技術の発展に寄与することも特例を実施する目的の一つであります。

※PED プログラム 博士課程後期社会人学生についての特例

- (1) 指導教員の指示に従い、選択したモジュールの修得要件を満たす講義科目履修計画をたて、スタジオで研究指導を受ける。
- (2) 特例による授業は、平日の夜間（17時50分～19時20分）又は土日（2日間で7.5コマ）に開設するが、昼間の授業を含めた全時間帯の受講を許可する。
- (3) 「特例」による履修計画の変更は、その都度申し出て許可を得ること。

VI 長期履修学生について

長期履修学生とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士課程前期2年，博士課程後期3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することが認められた者をいいます。

長期履修学生に認定された者は、一般の学生とは異なり、修学年数に関係なく、標準修業年限（博士課程前期2年，博士課程後期3年）分の授業料で修学することができます。

1. 申請資格

長期履修学生として申請することができる者は、社会人特別選抜に出願し合格した者（社会人合格者）で入学後も職業を有している者とする。

2. 申請の手続き

長期履修学生の申請を希望する者は、次の手順に従い手続きを行ってください。下記手続きの、ひとつでも怠ると審査の対象者とならないので注意すること。

(1) 出願前

志望指導教員に連絡を取る段階で、長期履修学生の適用を希望する旨申し出ること。

(2) 出願時

入学願書の長期履修学生適用希望欄にチェックを入れること。

(3) 入学手続時

長期履修学生を希望する者は、次の①②の書類を入学手続時に提出してください。

- ① 長期履修学生申請書（別紙様式1：入学手続書類送付時に送付予定（上記（1）、（2）の手続きを行った者にのみ送付））
- ② 在職証明書又は在職が確認できる書類
- ③ 提出期間は、2023年3月8日（水）～3月14日（火）（期間厳守）で、入学手続書類と同封のうえ、理工学系事務部事務部教務課理工学府係へ提出してください。

3. 可否の認定

申請書類に基づき審査のうえ、認定の可否を決定し、10月入学は10月中旬、4月入学は4月中旬に通知します。

4. 在学期間

長期履修学生の在学期間は、博士課程前期にあつては2年以上4年まで、博士課程後期にあつては3年以上6年までとなります。

なお、各年度の修了月は、3月のほかに6月、9月、12月となっていますので、長期履修学生申請書に修了予定年月を記入してください。

5. 授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は、授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を在学期間の年数で除した額となります。

(算出例1) 博士課程前期の長期履修学生申請者が在学期間3年と認定された場合
 $535,800 \text{ 円} \times 2 \text{ 年} \div 3 \text{ 年} = 357,200 \text{ 円}$
(授業料の年額) (標準修業年限) (認定された在学期間) (長期履修学生の授業料年額)

(算出例2) 博士課程後期の長期履修学生申請者が在学期間5年と認定された場合
 $535,800 \text{ 円} \times 3 \text{ 年} \div 5 \text{ 年} = 321,480 \text{ 円}$
(授業料の年額) (標準修業年限) (認定された在学期間) (長期履修学生の授業料年額)

6. 在学期間の短縮

長期履修学生は、認定された在学期間を短縮することができます。在学期間の短縮を希望する者は、当該学年を修了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間短縮願」を提出し、承認を得なければなりません。

*詳細については必ず窓口に相談すること。

7. 在学期間の延長

長期履修学生で特別な事情がある場合は、在学期間の延長をすることができます。在学期間の延長を希望する者は、在学期間が満了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間延長願」を提出し、承認を得なければなりません。ただし、在学期間の延長は1度限りです。

なお、在学期間は、博士課程前期4年、博士課程後期6年を超えることができません

また、在学期間延長後の授業料は、標準修業年限(博士課程前期2年、博士課程後期3年)分の授業料からすでに納付済みの授業料を差し引いた分を延長期間で新たに算出し、納付することになります。

8. その他

長期履修学生の申請にあたっては、入学願書出願前までに志望指導教員とよく相談してください。

Ⅶ 横浜国立大学私費外国人留学生授業料免除制度について

①制度

学業成績の優秀な私費外国人留学生の受入れ促進及び入学後の奨学支援を行うことを目的とした授業料免除制度です。学業成績のみにより選考を行い、上位の者から、全額免除、半額免除、3割免除の順に割り当てます。(なお、博士課程後期は上位の者から順に全額免除または半額免除になります。)

②対象者

本学の学部または大学院の正規課程に私費外国人留学生として出願する者で日本国の法律(「出入国管理及び難民認定法」)に定められる「留学」の在留資格を有する者または取得見込みの者が対象となります。

※国費外国人留学生、外国政府派遣留学生、及び私費外国人留学生のうち本人に代わり独立行政法人国際協力機構、世界銀行、外国政府その他の機関が授業料を負担することになった者については免除の対象者とはなりません。(文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者は、申請可能です。)

③評価・選考方法

入学試験の成績のみにより選考を行います。学部生及び博士課程前期(修士課程)学生については、上位50%に適用され、上位10%以内が全額免除、次の20%が半額免除、その次の20%が3割免除となります。(ただし、免除枠には上限があるため、該当者でも不許可となることがあります。)なお、博士課程後期は上位の者から順に全額免除または半額免除になります。

④申請方法(ウェブサイトからのダウンロードを想定)

申請を希望する者は、下記のウェブサイトから「申請書・経費支弁計画書」をダウンロードし、他の出願書類と一緒に出願時に郵送にて提出してください。

URL: https://global.ynu.ac.jp/support/tuition_scholarship/

⑤結果通知及び必要手続き

結果は入学試験の合格者発表時に通知されます。「免除予定者」として決定した者は、所定の手続きを完了することで「免除を許可された者」として決定されます。なお、「免除を許可された者」としての決定通知(結果発表)は学期ごとに学生情報システムにより行われます。

⑥備考

免除期間は入学時から連続して2学期間です。2年次以降については学期ごとに申請者の学業成績に基づき、適用者及び適用免除額の見直しを行います。2年次以降に授業料免除を希望する者は、所定の期日までに申請を行ってください。詳細は毎年2月頃(春学期)または8月頃(秋学期)に下記ウェブサイトに掲載予定です。

本学ウェブサイト: https://global.ynu.ac.jp/support/tuition_scholarship/

※は記入不要

受験番号※

令和 年 月 日

出願書類送付内訳書（出願資格認定審査） 横浜国立大学大学院理工学府博士課程後期（第二次）

氏名 _____

ユニット _____

教育分野 _____

本内訳書は、出願時の提出書類に添付して下さい。同封する書類等は下記の順に並べ、チェック欄に○を付けて下さい。

(チェック欄)

出願書類	書式	注意事項	一般		社会人	
			出願資格 6, 7	出願資格 8	出願資格 1-4	出願資格 5, 6
出願資格認定申請書	10	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成				
出願資格認定申請書	11	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成				
出願資格認定申請書	12	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成				
出願資格認定用経歴調書	13	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成				
研究業績調書	16	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成				
研究（希望）計画書	17	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して作成				
最終学歴の卒業（見込）証明書 又は在学期間（見込）証明書	-	出身大学（在籍大学）長又は研究科長が作成したもの。				
最終学歴の成績証明書	-	出身大学（在籍大学）長又は研究科長が作成したもの。				
受験許可書及び人物推薦書	-	【出願時に職務を有する者】任意の書式を使用。勤務先の所属長等が作成したもの				
研究又は業務に従事した証明書	-	【職務経験者】任意の書式を使用。				
長形 3 号の返信用封筒	-	任意の封筒を使用。住所・氏名を記入し、354 円切手を貼付。宛先は日本国内のみ。				

※は記入不要

受験番号※

令和 年 月 日

出願書類送付内訳書

横浜国立大学大学院理工学府博士課程後期（第二次）

氏名 _____

ユニット _____

教育分野 _____

教育プログラム _____

本内訳書は、出願時の提出書類に添付して下さい。同封する書類等は下記の順に並べ、チェック欄に○を付けて下さい。

(チェック欄)

出願書類	書式	注意事項	日本人		外国人留学生	
			筆記試験	社会人	筆記試験	社会人
入学願書	1-1	WEB出願システムより印刷して使用。				
写真 1枚	-	入学願書に貼付。				
修了(見込)証明書	-	出身大学(在籍大学)長又は研究科長が作成したもの。 日本語または英語以外の証明書は、日本語訳または英語訳を添付。				
学位取得証明書	-	取得学位が記載されたもの。卒業証書等の写しをもって代える場合は、理工学府係受付窓口にあらかじめ提示し原本確認が必要。 出願資格(1)の者は不要。 日本語または英語以外の証明書は、日本語訳または英語訳を添付。	/	/		
成績証明書	-	出身大学(在籍大学)長又は研究科長が作成したもの。 日本語または英語以外の証明書は、日本語訳または英語訳を添付。				
出願資格認定書の写し	-	出願資格認定審査を受けた者のみ提出。 出願資格認定結果送付時に同封しているもの。				
在留資格に関する証明	-	日本在住の外国人は在留カードの写し(両面)。 その他の外国人はパスポートの写し。	/	/		
外国人留学生履歴書	19-1	WEB出願システムより印刷して使用。 出願資格(1)の者は不要。	/	/		
受入内諾書	19-2	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して使用。 希望指導教員の署名が必要。	/	/		
修士論文又はそれに代る論文と、その概要	-	修士論文又はそれに代る論文(社会人特別選抜の場合、これまでの研究成果を示す論文)とその内容を日本語の場合2000字、英語の場合500 words程度に要約した概要。 修士課程修了見込み者は、修士論文課題と研究の進行状況を2000字以内の文章に要約すること。				
研究業績調書	16	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して使用。公表論文その他業績のリスト。可能な場合は別刷添付。		/		/
研究(希望)計画書	17	理工学府ウェブサイトよりダウンロードし印刷して使用。		/		/
国費外国人留学生証明書		(日本政府(文部科学省)国費外国人留学生のみ提出) コピー不可。	/	/		
私費外国人留学生授業料免除 「申請書・経費支弁計画書」		VIIを参照 希望者のみ提出してください。	/	/		

※出願資格認定審査を終えた者は、出願資格認定審査出願時に提出した書類の再提出を免除する。

CAMPUS MAP

横浜国立大学
キャンパスマップ



事務局

- N1** ① 納品検収センター
- N2** ① 本部東棟 (1階 入試課)
② 本部棟 (1階 授業料等収納窓口)
③ 本部西棟
④ 事務局車庫
- S1** ① 守衛所
- S5** ① 学生センター
1階: 保健管理センター、ナビ・ポート
2階: 学生支援課、教育企画課、国際教育課、なんでも相談室 (障がい学生支援室)
3階: キャリア・サポートルーム、免許状更新講習事務局、ハラスメント相談室

学部・大学院等学生窓口

- N3** ④ 経営学部1号館
[学生窓口] 1階 経営学務係/法科大学院係
- N4** ① 経済学部1号館
[学生窓口] 1階 経済学務係/学務企画係
- N8** ④ 理工学系事務棟
[学生窓口] 2階 理工学部教務係/理工学府係
- S3** ⑤ 教育学系事務棟
[学生窓口] 2階 学務第一係(学部)/学務第二係・教職大学院係(大学院)
- S5** ⑥ 工学基礎研究棟
[学生窓口] 1階 都市科学部学務係
都市イノベーション学府係
- S7** ⑤ 環境情報1号棟
[学生窓口] 2階 環境情報学府係

全学教育研究施設等

- N3** ④ 男女共同参画推進センター
- N4** ① 地域実践教育研究センター
① 成長戦略教育研究センター
- N7** ② 全学共用棟B
⑤ 全学共用棟A
- N8** ② 機器分析評価センター
- N9** ② 研究推進機構
- S1** ② 教育文化ホール
⑤ 国際教育センター
- S5** ② 情報基盤センター別館・高大接続・全学教育推進センター、大学院教育強化推進センター
③ リスク共生社会創造センター
④ 情報基盤センター
- S6** ② 全学共用棟D
④ 全学共用棟C
- S7** ④ 先端科学高等研究院
- S8** ① RI教育研究施設
- S9** ① 産学官連携研究施設

厚生施設

- N10** ④ Sガーデン (カフェテラス・コンビニエンスストア)
- ⑤ 第2食堂・大学生協
- S1** ④ 第1食堂 (れんが館)
⑤ 学生会館、大学生協本部

運動・課外活動施設

- S0** ① 体育サークル会館
② 運動場管理棟
- S1** ⑥ 文化サークル共用施設
⑦ 体育館・武道館
⑧ 弓道場射場

附属図書館

- S3** ⑥ 中央図書館
- S7** ⑤ 理工学系研究図書館



- 学食・カフェ
- 売店 (コンビニ)
- ATM
- 学務係・教務係・大学院係
- パソコン教室・サテライト教室
- 証明書自動発行機
- AED設置場所
- 駐輪場
- 駐車場
- バス停留所
- 学内バス停留所

管理施設

- N7** ① エネルギーセンター
- N9** ① 排水浄化センター

学部大学院等講義棟・研究棟他

- N3** ① 経営学研究棟
② 国際社会科学研究棟
- N3** ③ 経営学部講義棟2号館
⑤ 経営学部講義棟1号館
- N4** ② 経済学部講義棟1号館
③ 経済学部講義棟2号館
④ 経済学部新研究棟
⑤ 法学研究棟
- N5** ① 建築構造実験棟
② 建築材料・環境実験棟
③ 建築学棟
- N6** ① 電子情報工学2号棟
② 電子情報工学棟
③ 機械変電室
- N6** ④ 機械工学2号棟
⑤ 機械工学・材料棟
- N7** ③ 特別高圧実験棟
④ グリーン水素研究棟
⑥ 機械工場A棟
⑨ 機械工学実験棟
- N8** ① 低温工学棟
③ エネルギー工学棟
⑤ 化工・安工棟
⑥ 危険物屋内貯蔵所
- N10** ① 船舶海洋工学棟
② 大型水槽実験棟
③ 船舶海洋実験棟
- S2** ① 都市科学部講義棟
② 教育学部講義棟7号館
③ 教職大学院/教育学部附属教育デザインセンター
- S3** ① 教育学部講義棟6号館
② 教育学部第1研究棟
④ 教育学部第2研究棟

- S3** ⑤ 教育学部別棟
- S4** ① 教育学部5号館 (音楽棟)
② 教育学部4号館 (美術棟)
③ 教育学部第3研究棟
- S5** ③ 理学研究棟
⑤ 理工学部講義棟A
⑥ 工学基礎研究棟
⑦ 理工学部講義棟A (107)
⑧ 理工学部講義棟B
⑨ 理工学部講義棟C
- S6** ① 環境情報4号棟
③ 環境情報3号棟
- S7** ① 大学院工学研究棟
② 生物・電子情報棟
⑥ 化学棟
- S8** ② 土木構造実験棟
⑤ 土木工学棟
④ 水理実験棟
- S9** ① 総合研究棟 S棟・E棟
① 総合研究棟 W棟

交通案内図

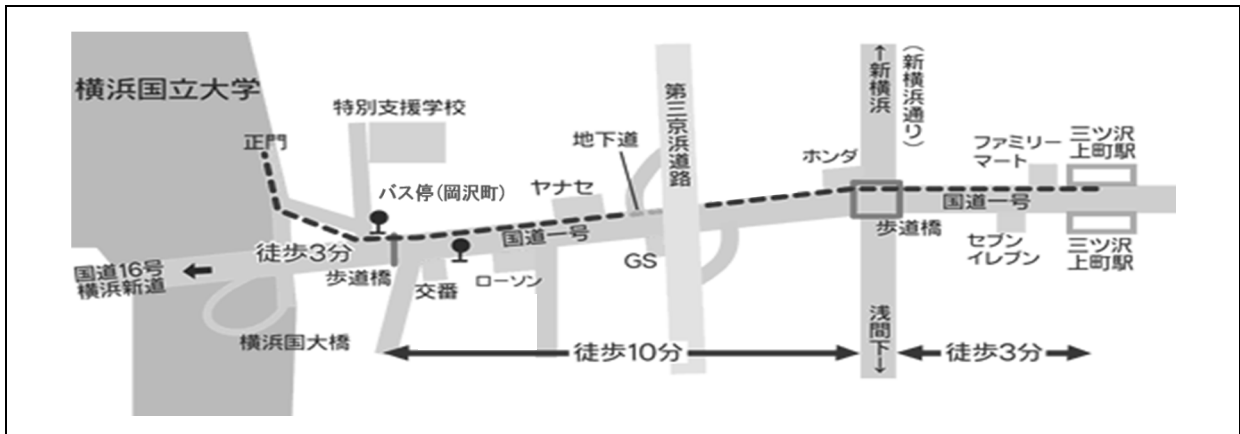
※本学までの経路の詳細は、本学ウェブサイトの「アクセス案内」を参照してください。

<https://www.ynu.ac.jp/access/index.html>

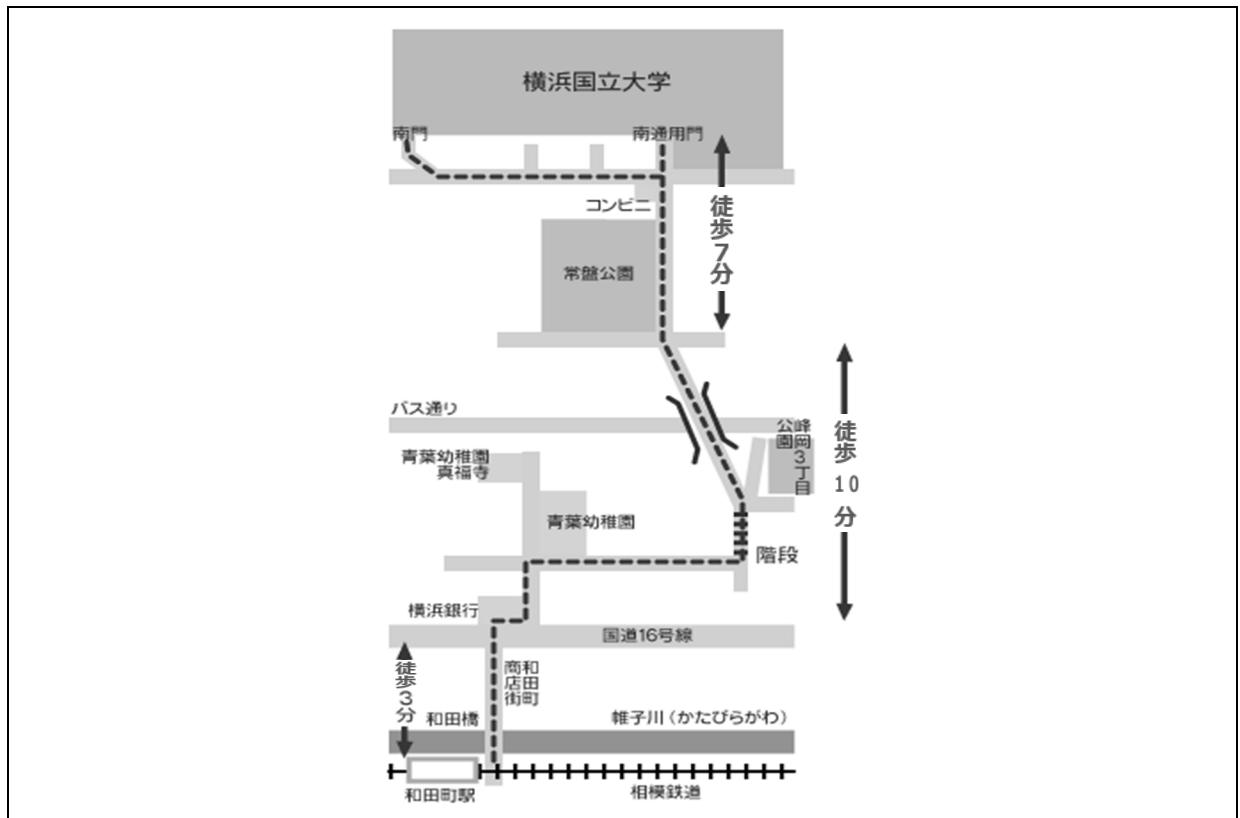
※相模鉄道線の羽沢横浜国大駅から本学までの経路には、歩道が非常に狭い箇所がありますので、通行には十分注意してください。

※バスは、交通渋滞により遅れる可能性がありますのでご利用に際しては注意してください。

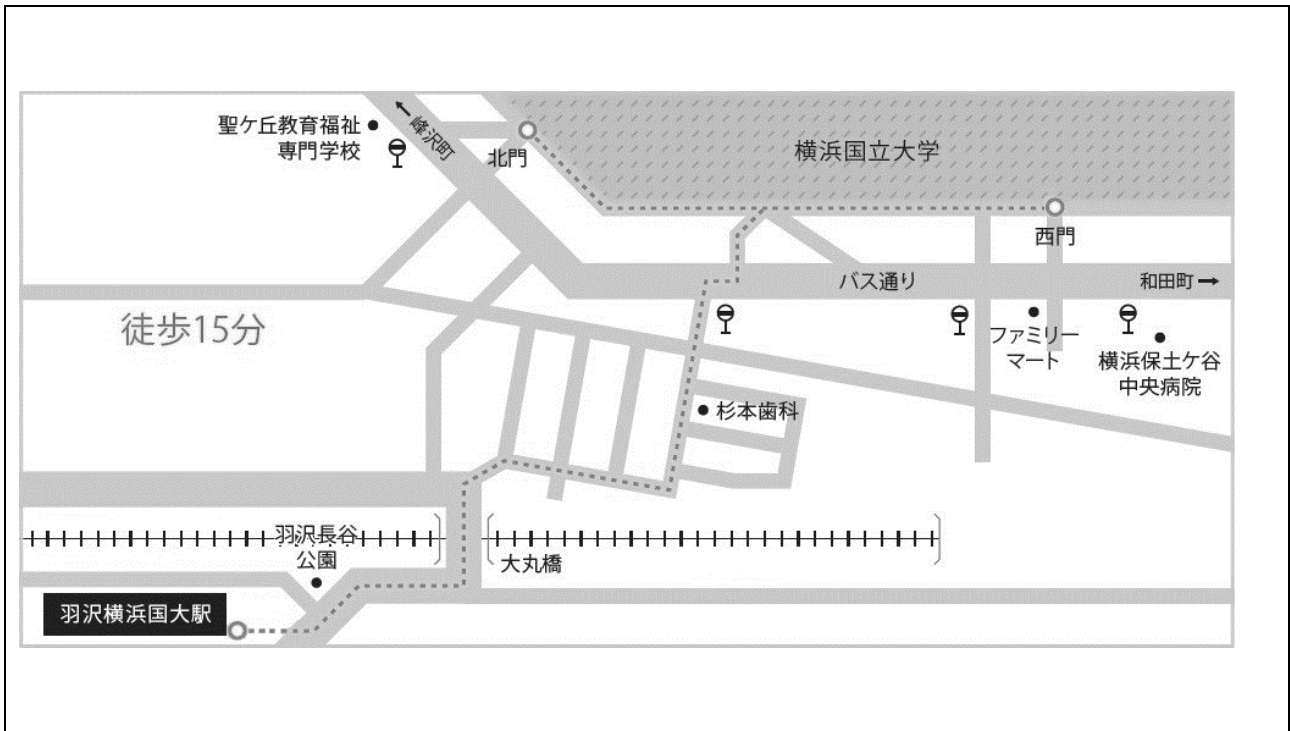
① 横浜市営地下鉄線 【三ツ沢上町駅】（改札を出て右側2番出口）から正門へ



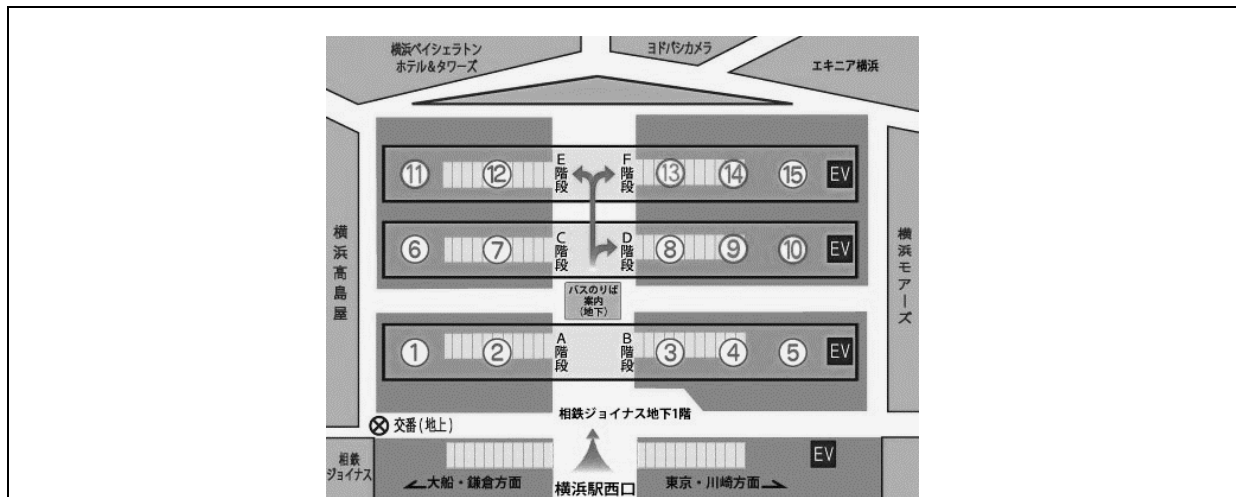
② 相模鉄道線 【和田町駅】から南門または南通用門へ



③ 相模鉄道線 【羽沢横浜国大駅】から西門または北門へ



④ バス 【横浜駅西口】から正門または大学構内（平日のみ）バス停留所へ



バス会社	乗り場	行き先	【下車停留所】
横浜市営バス	11 番	循環外回り 202 系統「横浜駅西口行」	岡沢町
	14 番	循環内回り 201 系統「横浜駅西口行」	岡沢町または大学構内（注 1）
	14 番	急行 329 系統「横浜駅西口行」	岡沢町または大学構内（注 1）
相鉄バス	10 番	浜 10 系統「横浜駅西口行」	岡沢町または大学構内（注 1）
	10 番	浜 5 系統「交通裁判所経由横浜駅西口行」	岡沢町
神奈中バス	13 番	01 系統「中山駅行」	岡沢町

注 1 大学構内のバス停留所（横浜国立大学正門前、国大中央、国大北、国大西、大学会館前、国大南門）は、平日のみ利用可能です。

注 2 上記のバス案内には、運行本数が少ない路線や土曜日は運行しない路線も含まれます。バスの発車時刻等は、各バス会社のウェブサイト等で確認してください。

横浜国立大学大学院理工学府

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79 番 5 号

TEL 045-339-3817 FAX 045-339-3820

E-mail ses.daigakuin-eng@ynu.ac.jp

<https://www.fse.ynu.ac.jp/index.html>

理工学系事務部教務課理工学府係